

(様式第 10)

千大院サ 144 号
令和 3 年 10 月 1 日

厚生労働大臣 殿

国立大学法人千葉大学長
開設者名 中 山 俊 憲

千葉大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
氏 名	国立大学法人千葉大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

千葉大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒260-8677 千葉市中央区亥鼻1-8-1	電話(043) 222-7171
-------------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	⑦	・	無
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
5神経内科	⑥血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
⑨感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科		⑪リウマチ科
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
①呼吸器外科	2消化器外科
5血管外科	⑥心臓血管外科
③乳腺外科	7内分泌外科
4心臓外科	⑧小児外科
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科	2矯正歯科
3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1糖尿病・代謝・内分泌・老年内科	2腫瘍内科	3食道・胃腸外科
4肝臓・胆のう・膵臓外科	5心療内科	6リハビリテーション科
7脳神経内科	8形成外科	9頭頸部耳鼻いんこう科
10病理診断科	11歯科口腔外科	
12	13	14
15	16	17
18	19	20
21		

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
45 床	5 床	0 床	0 床	800 床	850 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	252人	634人	671.6人	看 護 補 助 者	76人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	9人	28人	29.6人	理 学 療 法 士	24人	臨床検査技師	83人
薬 剤 師	59人	32人	86.4人	作 業 療 法 士	11人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	1人	0.6人	視 能 訓 練 士	7人	そ の 他	0人
助 産 師	49人	0人	49.0人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	5人
看 護 師	977人	25人	994.9人	臨 床 工 学 士	23人	医療社会事業従事者	16人
准 看 護 師	0人	1人	1.0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	134人
歯科衛生士	1人	3人	4.0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	364人
管理栄養士	8人	6人	13.7人	診療放射線技師	53人	その他の職員	9人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	79人	眼 科 専 門 医	10人
外 科 専 門 医	73人	耳鼻咽喉科専門医	12人
精 神 科 専 門 医	14人	放射線科専門医	19人
小 児 科 専 門 医	18人	脳神経外科専門医	10人
皮 膚 科 専 門 医	7人	整形外科専門医	28人
泌尿器科専門医	12人	麻 酔 科 専 門 医	18人
産婦人科専門医	19人	救 急 科 専 門 医	14人
		合 計	333人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (横手 幸太郎) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

令和2年4月1日就任前

・医療の質・安全管理委員会委員 (平成23年4月1日～平成26年3月31日、平成29年4月1日～令和2年3月31日)

令和2年4月1日就任後

・医療の質・安全管理委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	586人	8人	594人
1日当たり平均外来患者数	1,912人	86人	1,998人
1日当たり平均調剤数	入院：927剤 外来：29剤		
必要医師数	169人		
必要歯科医師数	5人		
必要薬剤師数	20人		
必要（准）看護師数	363人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備	概 要
集中治療室	642.22m ²	鉄筋コンクリート	病 床 数	26床
			人工呼吸装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	507m ²	
	[移動式の場合]	台 数	2台	
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合]	床 積	85.71m ²	
	[共用室の場合]	共用する室名		
化学検査室	403.00m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)検体搬送システム、生化学用自動分析装置、化学発光法測定装置、酵素免疫法測定装置、血液ガス分析装置、HbA1c分析装置、赤血球沈降速度分析装置、電気泳動分析装置、超低温保冷库(ディープフリーザー)	
細菌検査室	80.00m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)細菌同定・薬剤感受性分析装置、抗酸菌培養検査装置、自動染色装置、血液培養自動分析装置、細菌同定用質量分析装置、顕微鏡(蛍光を含む)、安全キャビネット	
病理検査室	961.00m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)自動包埋装置、組織切片薄切装置、自動染色装置、自動免疫染色装置、凍結切片薄切装置、パラフィン包埋機等	
病理解剖室	74m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)解剖台、切出台、固定槽、撮影装置	
研 究 室	718.00m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)パソコン、近赤外光イメージング装置、脳波計等	
講 義 室	736.01m ²	鉄筋コンクリート	室数	4室
図 書 室	135.00m ²	鉄筋コンクリート	収容定員	
			504人	
図 書 室	135.00m ²	鉄筋コンクリート	室数	4室
			蔵 書 数	17,150冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		82.4%	逆紹介率		104.4%
算出根拠	A：紹介患者の数		16,843人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		24,082人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		2,294人		
	D：初診の患者の数		23,225人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮坂 信之	東京医科歯科大学名誉教授	○	医療安全識見者 かつ病院管理経験者	有・ ☒ 無	1
花輪 正明	塩野義製薬株式会社薬事部長		臨床研究識見者	有・ ☒ 無	3
藤原 康弘	独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長		臨床研究識見者	有・ ☒ 無	3
東宮 秀夫	一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団研修事業本部長		臨床研究識見者	有・ ☒ 無	3
宗像 令夫	独立行政法人中小企業基盤整備機構関東本部千葉大亥鼻イノベーションプラザチーフインキュベーションマネージャー		臨床研究識見者	有・ ☒ 無	3
中谷 晴昭	千葉大学理事		医療及び臨床研究に関する学識経験者	☒ 有・無	3
後藤 弘子	千葉大学大学院社会科学研究院教授		法律学専門家	☒ 有・無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 本学ホームページ及び本院ホームページにて、設置規程及び委員名簿（選定理由についても記載有）、監査結果報告書を掲載している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
神経変性疾患の遺伝子診断	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
ペムトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法	0人
NKT細胞を用いた免疫療法 頭頸部扁平上皮がん	0人
全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロビドグレル硫酸塩, ビタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法	1人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫	0人
ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺癌	1人
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	29	56	血栓性血小板減少性紫斑病	2
2	筋萎縮性側索硬化症	37	57	原発性免疫不全症候群	33
3	脊髄性筋萎縮症	6	58	IgA 腎症	64
4	原発性側索硬化症	1	59	多発性嚢胞腎	54
5	進行性核上性麻痺	12	60	黄色靱帯骨化症	27
6	パーキンソン病	328	61	後縦靱帯骨化症	223
7	大脳皮質基底核変性症	10	62	特発性大腿骨頭壊死症	31
8	ハンチントン病	6	63	下垂体性ADH分泌異常症	38
9	シャルコー・マリー・トゥース病	37	64	下垂体性TSH分泌亢進症	7
10	重症筋無力症	420	65	下垂体性PRL分泌亢進症	56
11	多発性硬化症／視神経脊髄炎	357	66	クッシング病	23
12	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	83	67	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	26
13	封入体筋炎	10	68	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	80
14	クロウ・深瀬症候群	55	69	下垂体前葉機能低下症	125
15	多系統萎縮症	38	70	先天性副腎皮質酵素欠損症	12
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	108	71	アジソン病	3
17	ライソゾーム病	7	72	サルコイドーシス	356
18	副腎白質ジストロフィー	3	73	特発性間質性肺炎	107
19	ミトコンドリア病	15	74	肺動脈性肺高血圧症	134
20	もやもや病	58	75	慢性血栓性肺高血圧症	83
21	プリオン病	8	76	リンパ脈管筋腫症	8
22	進行性多巣性白質脳症	2	77	網膜色素変性症	480
23	HTLV-1関連脊髄症	2	78	バッド・キアリ症候群	2
24	特発性基底核石灰化症	4	79	特発性門脈圧亢進症	2
25	全身性アミロイドーシス	6	80	原発性胆汁性肝硬変	125
26	神経線維腫症	50	81	原発性硬化性胆管炎	32
27	天疱瘡	55	82	自己免疫性肝炎	107
28	表皮水疱症	3	83	クローン病	189
29	膿疱性乾癬(汎発型)	22	84	潰瘍性大腸炎	423
30	スティーヴンス・ジョンソン症候群	8	85	好酸球性消化管疾患	32
31	中毒性表皮壊死症	1	86	クリオピリン関連周期熱症候群	1
32	高安動脈炎	60	87	全身型若年性特発性関節炎	11
33	巨細胞性動脈炎	26	88	非典型溶血性尿毒症症候群	1
34	結節性多発動脈炎	18	89	先天性ミオパチー	9
35	顕微鏡的多発血管炎	77	90	筋ジストロフィー	67
36	多発血管炎性肉芽腫症	23	91	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	2
37	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	28	92	遺伝性周期性四肢麻痺	2
38	悪性関節リウマチ	35	93	脊髄空洞症	46
39	バージャー病	10	94	脊髄髄膜瘤	2
40	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	95	アイザックス症候群	1
41	全身性エリテマトーデス	495	96	遺伝性ジストニア	5
42	皮膚筋炎／多発性筋炎	176	97	脳表ヘモジデリン沈着症	3
43	全身性強皮症	125	98	前頭側頭葉変性症	9
44	混合性結合組織病	57	99	ビッカースタッフ脳幹脳炎	1
45	シェーグレン症候群	249	100	片側巨脳症	1
46	成人スチル病	14	101	限局性皮質異形成	1
47	再発性多発軟骨炎	6	102	神経細胞移動異常症	3
48	ベーチェット病	163	103	ドラベ症候群	1
49	特発性拡張型心筋症	81	104	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	2
50	肥大型心筋症	135	105	ウェスト症候群	12
51	拘束型心筋症	3	106	レット症候群	2
52	再生不良性貧血	59	107	スタージ・ウェーバー症候群	6
53	自己免疫性溶血性貧血	13	108	結節性硬化症	18
54	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1	109	色素性乾皮症	1
55	特発性血小板減少性紫斑病	127	110	先天性魚鱗癬	6

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	家族性良性慢性天疱瘡	3	166	胆道閉鎖症	24
112	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	97	167	アラジール症候群	1
113	特発性後天性全身性無汗症	18	168	IgG4関連疾患	109
114	眼皮膚白皮症	2	169	黄斑ジストロフィー	15
115	肥厚性皮膚骨膜炎	1	170	遅発性内リンパ水腫	1
116	弾性線維性仮性黄色腫	3	171	好酸球性副鼻腔炎	7
117	マルファン症候群	16	172	進行性ミオクロームステんかん	3
118	エーラス・ダンロス症候群	8	173	遺伝性自己炎症疾患	1
119	ウィルソン病	1	174	無虹彩症	2
120	VATER症候群	1	175		
121	有馬症候群	1	176		
122	クルーゾン症候群	11	177		
123	アペール症候群	7	178		
124	ファイファー症候群	3	179		
125	アントレー・ピクスラー症候群	1	180		
126	無脾症候群	1	181		
127	ウェルナー症候群	14	182		
128	コケイン症候群	1	183		
129	5p欠失症候群	1	184		
130	アンジェルマン症候群	2	185		
131	修正大血管転位症	1	186		
132	単心室症	1	187		
133	三尖弁閉鎖症	1	188		
134	ファロー四徴症	7	189		
135	両大血管右室起始症	5	190		
136	アルポート症候群	2	191		
137	急速進行性糸球体腎炎	14	192		
138	一次性ネフローゼ症候群	25	193		
139	紫斑病性腎炎	1	194		
140	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	195		
141	オスラー病	42	196		
142	閉塞性細気管支炎	6	197		
143	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	4	198		
144	肺胞低換気症候群	6	199		
145	副甲状腺機能低下症	13	200		
146	偽性副甲状腺機能低下症	6	201		
147	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	25	202		
148	脂肪萎縮症	1	203		
149	家族性地中海熱	21	204		
150	慢性再発性多発性骨髄炎	1	205		
151	強直性脊椎炎	16	206		
152	骨形成不全症	1	207		
153	軟骨無形成症	6	208		
154	リンパ管腫症/ゴーハム病	2	209		
155	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	3	210		
156	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	5	211		
157	後天性赤芽球癆	1	212		
158	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	3	213		
159	遺伝性鉄芽球性貧血	2	214		
160	エプスタイン症候群	1	215		
161	自己免疫性出血病XIII	5	216		
162	クローンカイト・カナダ症候群	2	217		
163	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	1	218		
164	総排泄腔遺残	2	219		
165	先天性横隔膜ヘルニア	24	220		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・後発医薬品使用体制加算1
・特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1入院基本料	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料 精神病棟 7対1入院基本料	・病棟薬剤業務実施加算2
・救急医療管理加算	・データ提出加算2(イ)
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算1 ・入退院支援加算3 ・入院時支援加算 ・総合機能評価加算
・診療録管理体制加算2	・精神疾患診療体制加算
・医師事務作業補助体制加算1(15対1)	・精神科急性期医師配置加算2
・25対1急性期看護補助体制加算(看護補助者5割以上) ・夜間100対1急性期看護補助体制加算 ・夜間看護体制加算	・地域医療体制確保加算
・看護職員夜間12対1配置加算1	・救命救急入院料3 ・救急体制充実加算2 ・救命救急入院料 小児加算
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料1 ・特定集中治療室管理料 小児加算 ・早期離床・リハビリテーション加算 ・早期栄養介入管理加算
・重症者等療養環境特別加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・無菌治療室管理加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料 1 母体・胎児集中治療室管理料 2 新生児集中治療室管理料
・無菌治療室管理加算2	・新生児治療回復室入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・小児入院医療管理料1 ・小児入院医療管理料 注2の加算(プレイルーム加算)
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	施設基準を満たしていれば届出の必要がない項目
・摂食障害入院医療管理加算	・臨床研修病院入院診療加算(歯科診療以外)
・医療安全対策加算1	・臨床研修病院入院診療加算(歯科診療に限る)
・感染防止対策加算1 ・感染防止対策地域連携加算 ・抗菌薬適正使用支援加算	・妊産婦緊急搬送入院加算
・患者サポート体制充実加算	・個別栄養食事管理加算
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・がん拠点病院加算1(イ)
・ハイリスク妊娠管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料 注2の加算	・総合医療管理加算 ・歯科治療時医療管理料
・外来栄養食事指導料の注2	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・糖尿病合併症管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合) ・皮下連続式グルコース測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・がん患者指導管理料イ	・在宅総合医療管理加算 ・在宅患者歯科治療時医療管理料
・がん患者指導管理料ロ	・遺伝学的検査
・がん患者指導管理料ハ	・骨髓微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料ニ	・BRCA1/2遺伝子検査
・外来緩和ケア管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・移植後患者指導管理料 1. 臓器移植後の場合	・先天性代謝異常症検査
・移植後患者指導管理料 2. 造血幹細胞移植後の場合	・抗HLA抗体(スクリーニング検査) ・抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・糖尿病透析予防指導管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・小児運動器疾患指導管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・検体検査管理加算(Ⅰ)
・婦人科特定疾患治療管理料	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・外来放射線照射診療料	・国際標準検査管理加算
・ニコチン依存症管理料	・遺伝カウンセリング加算
・がん治療連携計画策定料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・時間内歩行試験 ・シャトルウォーキングテスト
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・胎児心エコー法
・薬剤管理指導料	・ヘッドアップティルト試験
・医療機器安全管理料1	・人工臓器検査 ・人工臓器療法
・医療機器安全管理料2	・長期継続頭蓋内脳波検査
・精神科退院時共同指導料2	・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・脳波検査判断料1	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) ・呼吸器リハビリテーション料 初期加算
・単線維筋電図	・がん患者リハビリテーション料
・神経学的検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・黄斑局所網膜電図	・療養生活環境整備指導加算
・全視野精密網膜電図	・救急患者精神科継続支援料
・コンタクトレンズ検査料1	・認知療法・認知行動療法1
・小児食物アレルギー負荷検査	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・内服・点滴誘発試験	・医療保護入院等診療料
・CT透視下気管支鏡検査加算	・処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
・経気管支凍結生検法	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・精密触覚機能検査	・硬膜外自家血注入
・画像診断管理加算1	・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
・遠隔画像診断	・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・ポジトロン断層撮影	・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・導入期加算1
・CT撮影及びMRI撮影	・透析液水質確保加算 ・慢性維持透析濾過加算
・冠動脈CT撮影加算	・磁気による膀胱等刺激法
・心臓MRI撮影加算	・口腔粘膜処置
・乳房MRI撮影加算	・手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・センチネルリンパ節加算
・外来化学療法加算1	・皮膚移植術(死体)
・連携充実加算	・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る)
・無菌製剤処理料	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る)))
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) ・心大血管疾患リハビリテーション料 初期加算	・骨移植術(軟骨移植を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) ・脳血管疾患等リハビリテーション料 初期加算	・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ) ・運動器リハビリテーション料 初期加算	・椎間板内酵素注入療法

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腫瘍脊椎骨全摘術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合に限る。)
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)	・同種死体肺移植術
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・生体部分肺移植術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(高速回転式アテレクトミーカテーテルによるもの)(エキシマレーザ血管形成用カテーテルによるもの)
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・胸腔鏡下弁形成術
・網膜再建術	・経カテーテル大動脈弁置換術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・胸腔鏡下弁置換術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・経皮的僧帽弁クリップ術
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)
・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)及び下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術 ・内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉) ・内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・ペースメーカー移植術(リードレスペースメーカーの場合)
・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・センチネルリンパ節生検(併用法) ・乳がんセンチネルリンパ節加算1	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・センチネルリンパ節生検(単独法) ・乳がんセンチネルリンパ節加算2	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・補助人工心臓
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・同種心移植術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの))	・経皮的下肢動脈形成術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胃瘻造設術	・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術に限る。)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)	・輸血管理料 I
・体外衝撃波胆石破碎術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・腹腔鏡下肝切除術	・コーディネート体制充実加算
・生体部分肝移植術	・自己生体組織接着剤作成術
・同種死体肝移植術	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・体外衝撃波膵石破碎術	・同種クリオプレシピテート作製術
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科診療に係るものに限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科診療に係るものに限る)
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・顎関節人工関節全置換術(歯科)
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・同種死体腎移植術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・生体腎移植術	・歯科麻酔管理料
・膀胱水圧拡張術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・外来放射線治療加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高エネルギー放射線治療	・細菌核酸・薬剤耐性遺伝子同時検出
・1回線量増加加算(全乳房照射) ・1回線量増加加算(前立腺照射)	・クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出 1
・強度変調放射線治療(IMRT)	・植込型心電図検査
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・大腸CT撮影加算
・体外照射呼吸性移動対策加算	・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)
・定位放射線治療	・児童思春期精神科専門管理加算
・定位放射線治療呼吸移動対策加算(その他のもの)	・一酸化窒素吸入療法(新生児の低酸素性呼吸困難に対して実施するものに限る。)
・画像誘導密封小線源治療加算	・経皮的冠動脈形成術
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・CAD/CAM冠	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・保険医療機関間の連携による病理診断	・経皮的動脈遮断術
・デジタル病理画像による病理診断	・ダメージコントロール手術
・病理診断管理加算2	
・悪性腫瘍病理組織標本加算	手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分1)
・口腔病理診断管理加算2	・頭蓋内腫瘍摘出術等
	・黄斑下手術等
施設基準を満たしていれば届出の必要がない項目	・鼓室形成手術等
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行期加算)	・肺悪性腫瘍手術等
・高度難聴指導管理料	・経皮的カテーテル心筋焼灼術
・外来リハビリテーション診療料	
・がん治療連携管理料	手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分2)
・認知症専門診断管理料	・靱帯断裂形成手術等
・診療情報提供料(Ⅲ)	・水頭症手術等
・横隔神経電気刺激装置加算	・鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等
・造血器腫瘍遺伝子検査	・尿道形成手術等
・デングウイルス抗原定性及びデングウイルス抗原・抗体同時測定定性	・角膜移植術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・肝切除術等	・
・子宮附属器悪性腫瘍手術等	・
	・
手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分3)	・
・上顎骨形成術等	・
・上顎骨悪性腫瘍手術等	・
・バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	・
・母指化手術等	・
・内反足手術等	・
・食道切除再建術等	・
・同種腎移植術等	・
	・
手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分4)	・
・胸腔鏡又は腹腔鏡を用いる手術(通則4に掲げる手術を除く)	・
	・
手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6その他の区分)	・
・人工関節置換術	・
・乳児外科対象手術	・
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・
・冠動脈及び大動脈バイパス移植術並びに体外循環を要する手術	・
・経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・遺伝子パネル検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	剖検症例検討会：年間約30回 臨床症例検討会：年間約170回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 28例 / 剖検率 6.3%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
重症心不全における訪問看護事業所と高次病院との包括的診療連携構築の有効性の検証	岡田 将	循環器内科	1,300,000	補委 日本学術振興会
拡張現実技術を用いた新方式聴診シミュレータにより最も効果的な医学教育手法の確立	藤本 善英	冠動脈疾患治療部	390,000	補委 日本学術振興会
植込型VAD装着後の運動耐容能低下に関する器質的・血行動態学的・分子生物学的解析	岩花 東吾	循環器内科	910,000	補委 日本学術振興会
植え込み型除細動器の遠隔モニタリングに記録される心房細動は脳梗塞の予測因子か？	仲野 美代	循環器内科	1,820,000	補委 日本学術振興会
中性脂肪蓄積心筋血管症の診療に直結するエビデンス創出研究	宮内 秀行	循環器内科	130,000	補委 国立大学法人大阪大学
2型糖尿病合併不整脈治療デバイス植え込み患者におけるエンパグリフロジン介入後の重症不整脈数変化を評価するためのプラセボ対照二重盲検比較試験	近藤 祐介	循環器内科	110,000	補委 国立大学法人新潟大学
深層学習による急性心筋梗塞症の予測	高橋 愛	循環器内科	500,000	補委 (公財)人工知能研究振興財団
在宅医療推進のための多職種連携研修会 千葉心不全ネットワーク研修会	岡田 将	循環器内科	500,000	補委 (公財)在宅医療助成 勇美記念財団
培養担子菌抽出物の放射線防護効果の解析と放射線治療に伴う障害軽減の検討	宇野 隆	放射線科	1,170,000	補委 日本学術振興会
画像と病理の対比に基づいた唾液腺腫瘍の包括的診断フロー構築	堀越 琢郎	放射線科	1,430,000	補委 日本学術振興会
子宮頸癌に対するRadiomicsを応用した新規IGBT法の開発	渡辺 未歩	放射線科	1,430,000	補委 日本学術振興会
食道癌における包括的ゲノム情報と画像情報の融合：Radiogenomicsの実践	横田 元	放射線科	1,300,000	補委 日本学術振興会
画像特徴量を用いた肺癌のPD-L1発現推定と免疫チェックポイント阻害薬の効果予測	西山 晃	放射線科	1,170,000	補委 日本学術振興会
形態画像と数値流体解析の統合による大動脈瘤の解析手法の確立と増大予測モデルの構築	窪田 吉紘	放射線科	1,430,000	補委 日本学術振興会
MRIによる多角的血流情報を用いた卵巣腫瘍悪性リスク・組織型予測システムの構築	高田 章代	放射線科	2,080,000	補委 日本学術振興会
SNPsの違いによるパーキンソン病の脳形態学的評価	大平 健司	放射線科	1,950,000	補委 日本学術振興会
肺動静脈奇形の数値流体解ならび4D-flow MRIにおける血流動態解析	阿久津 陽	放射線科	2,080,000	補委 日本学術振興会
川崎病性冠動脈瘤に対する新しい血管壁MRIイメージング手法の開発	松本 浩史	放射線科	910,000	補委 日本学術振興会
「小卵胞内卵子成熟」理論に基づく難治性PCOSの新治療開発	生水 真紀夫	婦人科・周産期母性科	1,950,000	補委 日本学術振興会
子宮体癌の代謝プロファイル異常の解明と治療への応用	三橋 暁	婦人科・周産期母性科	1,300,000	補委 日本学術振興会
子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメトホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	三橋 暁	婦人科・周産期母性科	40,831,804	補委 日本医療研究開発機構
部分胞状奇胎の診断制度を向上させる免疫組織学的方法の確立	碓井 宏和	婦人科・周産期母性科	1,400,000	補委 日本学術振興会
PSTT:の新しい診断法の開発:Laeverynの発現を指標としたPSTTの新しい診断基準の作成	碓井 宏和	婦人科・周産期母性科	1,000,000	補委 国立大学法人金沢大学
子宮筋腫周囲筋層の血管新生因子発現と血管新生効果に関する研究	石川 博士	婦人科・周産期母性科	1,000,000	補委 日本学術振興会
卵巣明細胞癌のテロメラーゼ逆転写酵素プロモーター変異とビタミンA受容体の関連	錦見 恭子	婦人科・周産期母性科	1,600,000	補委 日本学術振興会
血流豊富な妊娠組織遺残を維持する分子機構の分泌性蛋白質スクリーニングによる探索	佐藤 明日香	婦人科・周産期母性科	1,900,000	補委 日本学術振興会
進行卵巣癌患者血中・腹水中エクソソーム関連分子による抗がん薬効果予測モデルの構築	植原 貴史	婦人科・周産期母性科	2,083,750	補委 日本学術振興会
プロラクチン受容体解析とエクソソーム解析による母乳分泌不全の原因解明	小林 達也	婦人科・周産期母性科	1,500,000	補委 日本学術振興会
視機能障害認定のあり方に関する研究	山本 修一	眼科	9,652,000	補委 厚生労働省
早老症の医療水準やQOL向上を目指す集学的研究	忍足 俊幸	眼科	200,000	補委 厚生労働省

高血糖モデルにおける眼軸長延長抑制	馬場 隆之	眼科	1,100,000	補委	文部科学省
サイトメガロウイルスのマウス眼におけつ線維柱帯構造変化	清水 大輔	眼科	1,400,000	補委	文部科学省
POEMS症候群治療における眼所見と全身症状の関係に関する研究	岩瀬 雄仁	眼科	600,000	補委	文部科学省
Werner症候群を用いた光干渉断層計(OCT)による新規老化バイオマーカーの確立	横内 裕敬	眼科	300,000	補委	公益財団法人ちば県民保健予防財団
マスト細胞による組織マクロファージの分化・機能制御の解明	松江 弘之	皮膚科	3,900,000	補委	文部科学省科学研究費
抗PD-1抗体治療の効果を示す直接的バイオマーカーの検索	猪爪 隆史	皮膚科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費
肥満細胞による末梢組織常在マクロファージ前駆細胞を介した線維化メカニズムの解明	若林 正一郎	皮膚科	2,100,000	補委	文部科学省科学研究費
アンドロゲン受容体ならびにエピゲノム修飾を標的とした去勢抵抗性前立腺癌の克服	市川 智彦	泌尿器科	5,100,000	補委	日本学術振興会
リキッドバイオプシーを応用したアミノ酸トランスポーター前立腺癌治療モデル構築	坂本 信一	泌尿器科	1,200,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌AR-V7標的遺伝子の同定を目的とした網羅的エピゲノム解析	今村 有佑	泌尿器科	900,000	補委	日本学術振興会
ホルモン治療中前立腺癌再発を早期に検出可能にするバイオマーカーの開発	竹内 信善	泌尿器科	1,100,000	補委	日本学術振興会
網羅的マイクロRNA発現解析における去勢抵抗性前立腺癌・新規治療標的分子の探索	新井 隆之	泌尿器科	1,300,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌におけるAR及びFOXA1を介したエピジェネティックな発癌分子機構の解明	佐藤 広明	泌尿器科	800,000	補委	日本学術振興会
微小環境下の前立腺癌エピゲノム変化に基づく去勢抵抗性獲得機序の解明	金坂 学斗	泌尿器科	1,400,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌の神経依存的去勢抵抗性増殖のメカニズムの解明	五島 悠介	泌尿器科	1,100,000	補委	日本学術振興会
内視鏡外科手術のデータベース構築に資する横断的基盤整備	坂本 信一	泌尿器科	4,873,000	補委	日本医療研究開発機構
スギ花粉舌下免疫療法がヒノキ花粉症に与える効果の免疫学的アプローチによる検証	米倉 修二	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
下咽頭インピーダンス検査およびLPR動物モデルを用いた咽喉頭逆流症の病態解明	鈴木 猛司	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
機能性RNAを起点とした治療抵抗性頭頸部扁平上皮癌のドラッグリポジショ戦略	吉川 直子	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌患者エクソソーム由来機能性RNA解析に基づく治療抵抗性分子機序の探索	越塚 慶一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
血清エクソソームを用いた口腔癌の再発転移マーカーの探索	木下 崇	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
DNAメチル化異常特性に基づく化学放射線治療効果予測と発癌分子機構の解明	黒川 友哉	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
唾液腺癌に対するホウ素中性子捕捉療法後のゲノム学的変化の解明	福本 一郎	耳鼻咽喉・頭頸部外科	780,000	補委	日本学術振興会
α-galcerシートとNKT細胞免疫系を用いたアレルギー性鼻炎の新規治療法	栗田 惇也	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
マイクロRNAを基軸とした 頭頸部扁平上皮癌における治療抵抗性機序の解明	花澤 豊行	耳鼻咽喉・頭頸部外科	200,000	補委	(特非)医療福祉ネットワーク千葉
乳児期発症のアトピー性皮膚炎の予後を追跡しアレルギーマーチへの診療の影響と危険因子を探索する前向きコホート研究	山出史也 研究代表者 大矢 幸弘	小児科	390,000	補委	AMED
経皮感作対策による食物アレルギー発症予防研究	山出史也 研究代表者 斎藤 博久	小児科	390,000	補委	AMED
うつ症状の神経基盤モデルに基づく診断・治療法の開発ー皮質・側坐核・中脳系への着目	伊豫雅臣 (研究分担者)	精神神経科 子どものこころ診療部	1,500,000	補委	AMED
精神疾患レジストリの構築・統合により新たな診断・治療法を開発するための研究	伊豫雅臣 (研究分担者)	精神神経科 子どものこころ診療部	1,500,000	補委	AMED
New Long Stay 防止統合プログラムの有用性	伊豫雅臣	精神神経科 子どものこころ診療部	2,800,000	補委	厚生労働省科学研究費

子どもの摂食障害、発達障害の脳ハビリテーション法の開発;認知特性と神経基盤の解明	中里道子	精神神経科 子どものこころ診療部	4,810,000	補 委	文部科学省科学 研究費
精神作用を有する一般薬に対する国民の意識、関心及びニーズに関する調査研究	椎名明大	精神神経科 子どものこころ診療部	900,000	補 委	公益財団法人 一般用医薬品 セルフメディ ケーション振興 財団
令和2年度研究助成	椎名明大	精神神経科 子どものこころ診療部	900,000	補 委	公益財団法人 民事紛争処理 研究基金
周産期から取り組む包括的児童虐待防止システム構築のための調査研究	橋本佐	精神神経科 子どものこころ診療部	2,700,000	補 委	公益財団法人 三菱財団
令和2年度千葉県子どもの心の診療ネットワーク事業	佐々木剛	精神神経科 子どものこころ診療部	7,800,000	補 委	千葉県
治療抵抗性統合失調症薬の安全性の検証による望ましい普及と体制構築に向けた研究	新津富央 (研究分担者)	精神神経科 子どものこころ診療部	600,000	補 委	厚生労働省科学 研究費
高用量抗精神病薬によるグリア損傷および電気けいれん療法によるその修復	小田靖典	精神神経科 子どものこころ診療部	1,950,000	補 委	文部科学省科学 研究費
N-メチル-D-アスパラギン酸受容体作動薬による治療抵抗性統合失調症治療の再検討	木村大	精神神経科 子どものこころ診療部	1,430,000	補 委	文部科学省科学 研究費
気分障害患者のライフイベントに関連した心理的苦悩症状のための尺度開発	佐藤愛子	精神神経科 子どものこころ診療部	1,690,000	補 委	文部科学省科学 研究費
治療抵抗性統合失調症におけるオキシトシン/バソプレシン系システムの包括的検討	仲田祐介	精神神経科 子どものこころ診療部	1,400,000	補 委	文部科学省科学 研究費
被虐待歴を持つ妊婦のオキシトシン系システムの検討	橘 真澄	精神神経科 子どものこころ診療部	1,430,000	補 委	文部科学省科学 研究費
国際双極性障害学会 (ISBD) 2020助成金	井手本啓太	精神神経科 子どものこころ診療部	30,000	補 委	日本うつ病学 会
患者レジストリを二次利用した潜在的患者ニーズの自動抽出方法の検討	種村 菜奈枝	精神神経科 子どものこころ診療部	1,170,000	補 委	文部科学省科学 研究費
スーパーエンハンサーを標的とした口腔癌薬剤耐性機構の解明による治療法開発	鵜澤 一弘	歯科・顎・口腔外科	7,410,000	補 委	文部科学省
口腔癌悪性度を決定するスーパーエンハンサーによる系統的転写制御機構の解明	椎葉 正史	歯科・顎・口腔外科	5,720,000	補 委	文部科学省
骨石灰化因子Plod2の機能不全がもたらす癌顎骨浸潤・転移機構の解明	坂本 洋右	歯科・顎・口腔外科	1,300,000	補 委	文部科学省
non coding RNA吸着性環状RNAの癌増殖浸潤転移における役割の解明	笠松 厚志	歯科・顎・口腔外科	5,330,000	補 委	文部科学省
ゲノム編集KOマウスを用いたコラーゲン分子架橋因子PLOD2の癌転移における役割	中嶋 大	歯科・顎・口腔外科	1,820,000	補 委	文部科学省
血小板活性化因子PAFの癌・非癌細胞での細胞増殖作用機構解明と	伊豫田 学	歯科・顎・口腔外科	1,300,000	補 委	文部科学省
正常唾液腺細胞の機能維持・長期大量培養法と全く新規の自家移植法の展開研究	肥後 盛洋	歯科・顎・口腔外科	1,690,000	補 委	文部科学省
microRNA吸着能を持つ環状RNA搭載エクソソームの開発	吉村 周作	歯科・顎・口腔外科	2,340,000	補 委	文部科学省
口腔癌EGFR分子標的治療薬の心毒性・皮膚障害発生機構の解明と治療薬の開発	喜田 晶洋	歯科・顎・口腔外科	2,080,000	補 委	文部科学省
薬剤誘導性LH2コンディショナルKOマウスを用いた癌進展機構の解明	山本 亜有美	歯科・顎・口腔外科	1,950,000	補 委	文部科学省
癌特異的吸着機能因子を搭載したエクソソームの開発	馬場 隆緒	歯科・顎・口腔外科	2,080,000	補 委	文部科学省
口腔癌における転写増強機序tandem duplicatorの分布の全ゲノム解析	宮本 勲	歯科・顎・口腔外科	2,080,000	補 委	文部科学省
口腔癌の放射線耐性を規定するスーパーエンハンサーの検索同定と新規治療薬の開発	齋藤 智昭	歯科・顎・口腔外科	2,080,000	補 委	文部科学省
PDEファミリーによる白金系抗癌剤の排泄メカニズムの解明と阻害薬の同定	小出 奈央	歯科・顎・口腔外科	2,080,000	補 委	文部科学省
ヒト唾液腺細胞の機能維持培養法と新規自家移植法の開発研究	福嶋 玲雄	歯科・顎・口腔外科	2,210,000	補 委	文部科学省
拠点病院集中型から地域連携を重視したHIV	坂本 洋右	歯科・顎・口腔外科	1,000,000	補 委	厚生労働省
全身麻酔中の高炭酸ガス血症維持が術後回復過程と退院時アウトカムに与える影響	磯野史朗	麻酔・疼痛・緩和医療科	6,300,000	補 委	日本学術振興 会

計30件

小児声門上器具使用時の声門部開通性の時系列評価研究	石橋克彦	麻酔・疼痛・緩和医療科	900,199	補委	日本学術振興会
マスク換気困難のメカニズムの解明とマスク人工呼吸法の改善の研究	奥山めぐみ	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,400,000	補委	日本学術振興会
低酸素虚血脳障害に対する小胞体ストレスの関与	国分宙(分担者)	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,000,020	補委	日本学術振興会
呼吸困難感に対するオピオイドを用いた症状緩和プロトコル確立	田口奈津子	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,681,993	補委	日本学術振興会
高流量鼻カニューラ酸素療法による術後上気道閉塞の治療効果の解明	坂口雄一	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,830,633	補委	日本学術振興会
非拘束、非接触ベッドセンサー生体情報モニターの小児術後管理における有用性検討	波照間友基	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,472,936	補委	日本学術振興会
筋弛緩拮抗薬投与後の再クラーレ化危険因子とそのメカニズム解明に関する研究	村松隆宏	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,989,858	補委	日本学術振興会
スガマデクス投与による声門狭窄発生のメカニズム:ランダム化比較試験	石橋克彦	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,000,000	補委	日本学術振興会
マスク人工呼吸中の呼気時流量制限のメカニズム研究	奥山めぐみ	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,329,132	補委	日本学術振興会
光感受性ナノキャリアを用いた脳腫瘍のウイルス療法	岩立康男	脳神経外科	1,341,523	補委	日本学術振興会
経頭蓋電気刺激による脳神経疾患での姿勢制御異常に対する新規治療開発	樋口佳則	脳神経外科	990,175	補委	日本学術振興会
新プロテオミクス解析から捉える下垂体腫瘍における遺伝子型-表現型連関の解明	堀口健太郎	脳神経外科	1,684,196	補委	日本学術振興会
安静時fMRIを用いた脳腫瘍患者の脳内ネットワークの機能的結合の解析	廣野誠一郎	脳神経外科	1,843,257	補委	日本学術振興会
脳梗塞に対する血清抗体マーカーによる発症予測と病型診断	吉田陽一	脳神経外科	1,719,048	補委	日本学術振興会
免疫療法に反応した肺癌患者における標的T細胞エビトープ探索システムの開発	鈴木 秀海	呼吸器外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
肺癌幹細胞の解析に基づく新規治療戦略の開発	坂入 祐一	呼吸器外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
肺移植後急性・慢性拒絶反応を抑制するIL-2複合体の臨床応用に向けた研究	山田 義人	呼吸器外科	1,400,000	補委	日本学術振興会
腫瘍クローンの追跡に基づいた肺癌治療体系構築への挑戦	吉野 一郎	呼吸器外科	2,100,000	補委	日本学術振興会
GFP発現ラットによる肺移植および骨髄移植技術を用いた肺高血圧症の包括的研究	吉野 一郎	呼吸器外科	3,200,000	補委	日本学術振興会
肺移植における抗体関連拒絶反応に対する免疫グロブリン分解酵素による脱感作療法	松本 寛樹	呼吸器外科	1,600,000	補委	日本学術振興会
高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法の標準治療確立のための研究	吉野 一郎	呼吸器外科	637,000	補委	日本医療研究開発機構
抗体関連拒絶反応に対する免疫グロブリン分解酵素による予防	松本 寛樹	呼吸器外科	300,000	補委	令和2年度ちば県民保健予防基金助成金
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	巽浩一郎	呼吸器内科	6,000,000	補委	厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	田邊信宏	呼吸器内科	100,000	補委	厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	坂尾誠一郎	呼吸器内科	100,000	補委	厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	寺田二郎	呼吸器内科	100,000	補委	厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	杉浦寿彦	呼吸器内科	100,000	補委	厚生労働省
薬剤性間質性肺炎・重症薬疹に関するバイオマーカー候補の適格性確認と規制要件案の作成に関する研究	巽浩一郎	呼吸器内科	4,100,000	補委	日本医療研究開発機構
薬剤性間質性肺炎・重症薬疹に関するバイオマーカー候補の適格性確認と規制要件案の作成に関する研究	安部光洋	呼吸器内科	400,000	補委	日本医療研究開発機構
慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する肺動脈バルーン形成術の有効性と安全性に関する研究	巽浩一郎	呼吸器内科	100,000	補委	日本医療研究開発機構

全国患者レジストリJapan PH Registry のデータを活用し肺動脈性肺高血圧症に対するPrecision Medicine を実施するためのコンセプト策定研究	巽浩一郎	呼吸器内科	500,000	補 委	日本医療研究 開発機構
慢性血栓塞栓性肺高血圧症に関する多施設共同レジストリ研究	巽浩一郎	呼吸器内科	100,000	補 委	日本医療研究 開発機構
レジストリを活用した慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するエンドキサパンの適応拡大のための第Ⅲ相医師主導治験	巽浩一郎	呼吸器内科	400,000	補 委	日本医療研究 開発機構
GFP発現ラットによる肺移植および骨髄移植技術を用いた肺高血圧症の包括的研究	坂尾誠一郎	呼吸器内科	4,000,000	補 委	文部科学省
GFP発現ラットによる肺移植および骨髄移植技術を用いた肺高血圧症の包括的研究	西村倫太郎	呼吸器内科	50,000	補 委	文部科学省
GFP発現ラットによる肺移植および骨髄移植技術を用いた肺高血圧症の包括的研究	三輪秀樹	呼吸器内科	50,000	補 委	文部科学省
好中球NETsに着目した慢性閉塞性肺疾患の病態解明	伊狩潤	呼吸器内科	1,100,000	補 委	文部科学省
腸内細菌叢の変容が肺高血圧症の病態に関与する機序の解明と臨床応用のシーズ探索	田邊信宏	呼吸器内科	700,000	補 委	文部科学省
腸内細菌叢の変容が肺高血圧症の病態に関与する機序の解明と臨床応用のシーズ探索	重城喬行	呼吸器内科	700,000	補 委	文部科学省
肺動脈性肺高血圧症における組織常在マクロファージの役割と治療応用	重田文子	呼吸器内科	400,000	補 委	文部科学省
肺動脈性肺高血圧症における組織常在マクロファージの役割と治療応用	巽浩一郎	呼吸器内科	50,000	補 委	文部科学省
肺動脈性肺高血圧症における組織常在マクロファージの役割と治療応用	坂尾誠一郎	呼吸器内科	50,000	補 委	文部科学省
AlphaLISA法による免疫介在性有害事象に特異的な自己抗体の探索	岩澤俊一郎	呼吸器内科	1,800,000	補 委	文部科学省
自己抗体マーカーによる睡眠時無呼吸症候群の脳梗塞・心筋梗塞発症予測とモニタリング	寺田二郎	呼吸器内科	700,000	補 委	文部科学省
慢性閉塞性肺疾患における呼気ガス分析を用いた診断システムの探索	川田奈緒子	呼吸器内科	800,000	補 委	文部科学省
CTEPH血管リモデリングの病態解明から新規治療へ;血管内皮細胞に着目して	須田理香	呼吸器内科	1,400,000	補 委	文部科学省
CD26/DPP-4を介した難治性呼吸器疾患の新規治療戦略	川崎剛	呼吸器内科	1,000,000	補 委	文部科学省
気管支肺胞洗浄の危険性探索とバルーンカテーテルを用いた気管支肺胞洗浄法の開発	安部光洋	呼吸器内科	1,110,000	補 委	文部科学省
重症肺高血圧症モデルマウスにおける内皮血球転換と肺血管リモデリング機構の解明	関根亜由美	呼吸器内科	1,070,000	補 委	文部科学省
難治性肺動脈性肺高血圧症と骨髄由来細胞に関連はあるか?	三輪秀樹	呼吸器内科	1,400,000	補 委	文部科学省
塩化鉄誘導肺線維症モデルにおけるマクロファージ・中皮細胞を標的とした病態成立機構	見上 英樹	呼吸器内科	1,000,000	補 委	文部科学省
ヒト肺検体を用いた難治性呼吸器疾患の発症予防策の検討	川崎剛	呼吸器内科	300,000	補 委	ちば県民保健 予防財団
間質性肺炎の認知度調査と認知度向上に向けた啓発活動	安部光洋	呼吸器内科	250,000	補 委	ちば県民保健 予防財団
肺高血圧症疾患モデルにおける内皮血球転換機構の解明	関根亜由美	呼吸器内科	2,000,000	補 委	上原記念生命 科学財団
三次元血栓モデルを用いた慢性血栓塞栓性肺高血圧症の内皮細胞・血小板の機能異常解析および病態機序解明	重城喬行	呼吸器内科	3,000,000	補 委	MSD生命科学 財団
間質性肺炎患者の周期リスク因子の探索研究	安部光洋	呼吸器内科	300,000	補 委	亥鼻奨学金
先天性呼吸器・胸郭形成異常疾患に関する診療ガイドライン作成ならびに診療体制の構築・普及に関する研究	照井慶太	小児外科	100,000	補 委	厚生労働省
先天性横隔膜ヘルニアにおける最適な人工換気法・手術時期・手術方法に関する研究	照井慶太	小児外科	400,000	補 委	日本医療研究 開発機構
神経芽腫における抗腫瘍免疫抑制機序解明と新規免疫療法の開発	吉澤比呂子	小児外科	2,200,000	補 委	日本医療研究 開発機構
腸管神経系異常疾患の病態における腸管免疫系の関与	文田貴志	小児外科	2,080,000	補 委	日本医療研究 開発機構

患者由来同所性異種移植(PDOX)モデルを用いた神経芽腫難治性メカニズムの解明	秦 佳孝	小児外科	800,000	補委	日本医療研究開発機構
SEREX法とFACS法を融合させた新手法による神経免疫疾患の網羅的自己抗体検索	森 雅裕	脳神経内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
脳構造画像と脳機能イメージングによる多系統萎縮症における中枢性呼吸障害の病態解明	杉山 淳比古	脳神経内科	500,000	補委	日本学術振興会
POEMS症候群の至適治療戦略の構築	三澤 園子	脳神経内科	1,000,000	補委	日本学術振興会
重症筋無力症の革新的治療AChR-Fcの臨床応用へ向けた生体内での作用機構の解明	鶴沢 顕之	脳神経内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
重症筋無力症における補体の網羅的解析と補体標的治療	小澤 由希子	脳神経内科	900,000	補委	日本学術振興会
筋萎縮性側索硬化症における皮質運動ニューロン興奮性測定システムの確立と治療薬開発	鈴木 陽一	脳神経内科	2,200,000	補委	日本学術振興会
末梢神経軸索興奮性、脳機能画像による神経障害性疼痛の病態解明と個別化治療の確立	桑原 聡	脳神経内科	1,900,000	補委	日本学術振興会
運動ニューロン疾患における神経興奮性検査を用いた新規治療薬開発	澁谷 和幹	脳神経内科	1,800,000	補委	日本学術振興会
POEMS症候群におけるサイトカインプロファイル解析と臓器特異的治療点の探索	水地 智基	脳神経内科	1,500,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病における包括的脳機能画像探索研究	平野 成樹	脳神経内科	320,000	補委	日本学術振興会
神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	桑原 聡	脳神経内科	21,420,000	補委	厚生労働省
運動失調症の医療水準, 患者のQOLの向上に資する研究班	桑原 聡	脳神経内科	700,000	補委	厚生労働省
神経変性疾患領域の基盤的調査研究	桑原 聡	脳神経内科	900,000	補委	厚生労働省
HPVワクチン接種後に生じた症状に関する診療体制の整備のための研究	桑原 聡	脳神経内科	500,000	補委	厚生労働省
抗Neurofascin155抗体陽性慢性炎症性脱髄性多発神経炎の診断基準・治療ガイドライン作成のためのエビデンスの創出	桑原 聡	脳神経内科	538,462	補委	日本医療研究開発機構
IgG4自己抗体陽性の慢性炎症性脱髄性多発神経炎(CIDP)患者を対象としたリツキシマブの有効性と安全性評価に関する多施設共同臨床試験	桑原 聡	脳神経内科	1,538,462	補委	日本医療研究開発機構
高用量E0302の筋萎縮性側索硬化症に対する第Ⅲ相試験-医師主導試験-	桑原 聡	脳神経内科	1,015,385	補委	日本医療研究開発機構・出資元企業(エーザイ)
多系統萎縮症の革新的治療法の開発研究	桑原 聡	脳神経内科	806,000	補委	日本医療研究開発機構
軽度アルツハイマー型認知症を対象とする八味地黄丸の認知機能に対する有効性と安全性を確認する探索的オープン標準治療対照無作為化割付多施設共同試験	平野 成樹	脳神経内科	384,650	補委	日本医療研究開発機構
閾値追跡法2連発経頭蓋磁気刺激検査と拡散テンソル画像・Quantitative susceptibility mappingを用いたALSにおける上位運動ニューロン・錐体路障害の病態解明の研究	杉山 淳比古	脳神経内科	1,000,000	補委	三井住友信託銀行 個人資産受託業務部 公益信託グループ
血液脳関門破綻を可視化する革新的プロトコル開発	栢田 大生	脳神経内科	2,000,000	補委	公益財団法人高橋産業経済研究財団
非出血性心停止モデルにおけるREBOAを用いた新規心肺蘇生法の開発	東 晶子	救急科・集中治療部	300,000	補委	日本学術振興会
ゲノム解析で導出した敗血症重症化因子SVEP1の機能解明と敗血症新規治療への展開	栗田健郎	救急科・集中治療部	1,300,000	補委	日本学術振興会
REBOA合併症根絶へのアプローチ:4D-CT perfusion解析	松村洋輔	救急科・集中治療部	1,500,000	補委	日本学術振興会
Metabolome解析による高度侵襲下のエネルギー代謝動態評価	大島 拓	救急科・集中治療部	1,100,000	補委	日本学術振興会
先進的ゲノム網羅解析統合による敗血症遺伝子多型研究の新展開	中田孝明	救急科・集中治療部	4,000,000	補委	日本学術振興会
ECPR症例における神経学的予後予測バイオマーカーの網羅的探索	安部隆三	救急科・集中治療部	1,200,000	補委	日本学術振興会
脂肪細胞における脂質受容体を介した病原脂質の解毒に関する研究	島田忠長	救急科・集中治療部	1,500,000	補委	日本学術振興会
層状化合物を利用した体外式肺腎補助装置の開発	高橋 希	救急科・集中治療部	600,000	補委	日本学術振興会
in vitroアッセイによる新規血管透過性亢進抑制物質の網羅的探索	岩瀬信哉	救急科・集中治療部	700,000	補委	日本学術振興会

計30件

救急医療予測アルゴリズム研究開発	安部隆三	救急科・集中治療部	6,503,000	(補委)	日本医療研究開発機構
採血による皮下組織慢性炎症の活動性の検出と、線維化過程の可視化	秋田新介	形成・美容外科	4,420,000	(補委)	日本学術振興会
拠点病院集中型から地域連携を重視したHIV診療体制を構築を目標とした研究	猪狩英俊	感染症内科	10,000,000	(補委)	厚労省
新型コロナウイルス感染症に対するNafamostat,Favipiravir併用特定臨床研究	猪狩英俊	感染症内科	1,000,000	(補委)	厚労省
早老症の実態把握と予後改善を目指す研究	谷口俊文	感染症内科	200,000	(補委)	厚労省
HIV感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制に対する研究	谷口俊文	感染症内科	1,500,000	(補委)	厚労省
千葉県における一般診療所に対する抗菌薬適正使用を推進する標準モデルを検証・すいしんするための研究	谷口俊文	感染症内科	7,675,000	(補委)	厚労省
HIV感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究	谷口俊文	感染症内科	2,100,000	(補委)	厚労省
TFH細胞機能制御を利用した全身性エリテマトーデスの治療法開発に関する基盤的研究	谷口俊文	感染症内科	50,000	(補委)	日本学術振興会
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	猪狩英俊	感染症内科	585,000	(補委)	日本医療研究開発機構
Word2Vecによる医学用語の分散表現は疾患間の数学的距離を定量的に表現するか	横川大樹	総合診療科	1300000	(補委)	日本学術振興会
患者中心性視点からのかかりつけ医の質と受療行動に関する調査研究	池上亜希子	総合診療科	1000000	(補委)	文部科学省
高精度な診断推論AIの実用化	生坂政臣	総合診療科	400000	(補委)	ハロラボ合同会社
機械学習を用いた医学生におけるアンプロフェッショナルリズムな行動に関する予測モデル	鋪野紀好	総合診療科	4420000	(補委)	日本学術振興会
細胞性自然免疫応答賦活によるC型肝炎における肝がん予防法の開発	加藤直也	消化器内科	22,823,077	(補委)	日本医療研究開発機構
C型肝炎ウイルス排除治療による肝硬変患者のアウトカムに関する研究開発	加藤直也	消化器内科	900,000	(補委)	日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルスの感染複製増殖機構解明による創薬基盤形成に関する研究	加藤直也	消化器内科	3,000,000	(補委)	日本医療研究開発機構
B型肝炎に関する病態生理の新たな解明に基づく制御法開発	千葉哲博	消化器内科	1,800,000	(補委)	日本医療研究開発機構
癌の自然免疫回避機構を標的とした肝癌の包括的マネジメント	加藤直也	消化器内科	3,900,000	(補委)	日本学術振興会
allograftマウスモデルによる肝細胞癌の癌免疫逃避機構の解明	千葉哲博	消化器内科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
液状検体を対象としたバーコードを用いた超高感度システムによる膵癌早期診断法の開発	三方林太郎	消化器内科	997,996	(補委)	日本学術振興会
チロシキナーゼ阻害剤が肝予備能に与える影響の解明と進行肝細胞癌の新規治療戦略の構築	近藤孝行	消化器内科	1,700,000	(補委)	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎と原発性硬化性胆管炎に共通する免疫機構解析による疾患形成機序の解明	太田佑樹	消化器内科	1,600,000	(補委)	日本学術振興会
ゲノム異常に着目した食道扁平上皮癌の革新的な診断・治療方法の開発	明杖直樹	消化器内科	2,700,000	(補委)	日本学術振興会
FGF19・FGFR4シグナル阻害による肝癌分子標的薬の新規治療戦略	神崎洋彰	消化器内科	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
ARID1A遺伝子に着目した肝内胆管癌に対する新規抗癌剤治療開発	鈴木英一郎	消化器内科	1,200,000	(補委)	日本学術振興会
クローン病の胆汁腸肝循環動態とFXR/FGF19の機能解析	齊藤景子	消化器内科	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
食道パレット腺癌の遺伝子的、及び機能的側面から見た病態解析	沖元謙一郎	消化器内科	300,000	(補委)	日本学術振興会
エクソソーム制御による慢性肝疾患関連サルコペニアに対する新規治療法の開発	中村昌人	消化器内科	800,000	(補委)	日本学術振興会
肝癌におけるマルチキナーゼ阻害剤のエピジェネティックな耐性機序の検討	日下部裕子	消化器内科	900,000	(補委)	日本学術振興会

計30件

肝細胞分化におけるヒストンメチル化酵素SETDB1の意義と再生医療への応用	金山健剛	消化器内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌におけるヒストンメチル化酵素G9aのエピジェネティックな制御機構の解明	横山昌幸	消化器内科	2,170,343	補委	日本学術振興会
原発性胆汁性胆管炎への臨床応用を目指したRas阻害剤のスクリーニング	中川良	消化器内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ネクロトーシスを標的とした慢性肝不全急性増悪の病態解明と革新的治療法の創出	近藤孝行	消化器内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
腸管関連の腫瘍免疫制御に着目した非アルコール性脂肪性肝疾患関連肝癌抑止法の創出	佐久間崇文	消化器内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
AI(artificial intelligence)を用いた大腸癌の深達度診断システムの開発	松村倫明	消化器内科	500,000	補委	内視鏡医学研究振興財団
本邦の炎症性腸疾患患者の多施設共同前向き長期観察研究	太田佑樹	消化器内科	300,000	補委	公益財団法人ちば県民保健予防財団
本邦の慢性肝疾患患者の多施設共同前向き長期観察研究	中村昌人	消化器内科	5,000,000	補委	アッヴィ合同会社
早老症に立脚したヒト老化病態の解明とその制御への応用(個体・臓器老化研究拠点)	堺田恵美子	血液内科	1,465,280	補委	日本学術振興会
フレイル高齢者のレジストリ研究及びロコモ、サルコペニアを含めた病態解明及び予防介入法の確立を目指した臨床ならびに関連研究	竹田勇輔	血液内科	300,000	補委	日本学術振興会
家族性 LCAT 欠損症を対象とした LCAT-GMAC 治療実用化に向けた医師主導治験	塚本祥吉	血液内科	300,000	補委	日本学術振興会
早老症の医療水準やQOL向上を目指す集学的研究	塚本祥吉	血液内科	1,350,000	補委	日本学術振興会
原発性高脂血症に関する調査研究	三村尚也	血液内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
指定難病の普及・啓発に向けた統合研究	堺田恵美子	血液内科	900,000	補委	日本医療研究開発機構
多層的モデルの解析に基づく老化と関連疾患の分子病態解明	三村尚也	血液内科	900,000	補委	日本医療研究開発機構
インスリンの肝直接作用と脳・脂肪組織を介した間接作用による血糖降下機序の解明	武藤朋也	血液内科	3,000,000	補委	持田記念医学薬学振興財団
糖尿病の血管合併症におけるPericyte老化の役割の解明	武藤朋也	血液内科	2,000,000	補委	日本白血球病研究基金
加齢や生活習慣による腎障害の病態解明に資する危険因子、生体マーカーの包括的検討	武藤朋也	血液内科	1,000,000	補委	先進医薬研究振興財団
R3hdm1を用いた筋腎関連の機序解明および新規治療戦略の確立	武藤朋也	血液内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
ヒト老化モデルのエクソソームがもたらす老化機序の解明	中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	3,000,000	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
ヒト老化モデルの細胞老化に及ぼすメカニカルストレスの効果	中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	3,700,000	補委	日本学術振興会
新規IL-33活性化機構解明による慢性アレルギー性疾患治療法の開発	鈴木 浩太郎	アレルギー・膠原病内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
早老症Werner症候群患者検体を用いた老化に伴うインスリン抵抗性の機序解明	須藤 明	アレルギー・膠原病内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
AKAP13を用いた骨代謝調節機構の解明	前澤 裕子	アレルギー・膠原病内科	1,500,000	補委	日本学術振興会
グルタミン代謝を介した多臓器連関によるエネルギー代謝恒常性維持機構の解明	池田 啓	アレルギー・膠原病内科	1,601,439	補委	日本学術振興会
肝糖新生におけるType2 Innate Lymphoid Cellの役割の解明	玉地 智宏	アレルギー・膠原病内科	1,329,998	補委	日本学術振興会
心停止下ドナー心移植におけるドナー心評価法と虚血再灌流障害制御法の確立	岩田 有史	アレルギー・膠原病内科	1,500,000	補委	日本学術振興会
CFDを用いたCABG患者個別最適化モデルの構築と3D printerによる応用	横田 雅也	アレルギー・膠原病内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
スマートウォッチを利用した機械学習による発作性心房細動診断アルゴリズム開発研究	古田 俊介	アレルギー・膠原病内科	1,409,047	補委	日本学術振興会
Vector flow mappingを用いた非侵襲的心拍出量測定法の開発	岩本 太郎	アレルギー・膠原病内科	1,600,452	補委	日本学術振興会

計30件

インターロイキン-11による温阻血ドナー心筋保護効果	田中 繁	アレルギー・膠原病内科	2,221,202	(補委)	日本学術振興会
植込型補助人工心臓装着予定患者を対象とした出血性合併症リスクの事前予測に基づいた個別化精密医療・最適化補助人工心臓治療の実現	鈴木 一正	アレルギー・膠原病内科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
難治性心血管疾患におけるマルチオミックス解析による病態解明と精密医療	牧田 荘平	アレルギー・膠原病内科	2,300,000	(補委)	日本学術振興会
エクソソーム・腸内細菌叢解析による癌宿主連環制御に基づく食道・胃癌分子治療開発	古矢 裕樹	アレルギー・膠原病内科	1,900,000	(補委)	日本学術振興会
IVIM MRIとtexture 解析を応用した食道癌の低侵襲バイオマーカーの開発	粕谷 忠道	アレルギー・膠原病内科	1,900,000	(補委)	日本学術振興会
食道扁平上皮癌幹細胞を標的とした新規エビジェネティック治療戦略の開発	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	7,220,000	(補委)	日本医療研究開発機構
CD63をターゲットとした食道扁平上皮癌に対する新規治療法の探索	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	29,230,770	(補委)	日本医療研究開発機構
スキルス胃癌オルガノイドモデルを用いた癌間質相互作用を標的とした治療戦略の開発	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	10,000,000	(補委)	日本医療研究開発機構
消化器癌術後難治性瘻孔に対する再生医療技術を用いた組織充填剤の開発	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	600,000	(補委)	国立長寿医療研究センター
食道扁平上皮癌におけるFra-1による低酸素誘導因子カスケード制御機構の解析	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	110,000,000	(補委)	日本医療研究開発機構
センチネルリンパ節理論に基づく新規光応答性免疫誘導システムに関する基礎的検討	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	5,600,000	(補委)	厚生労働省
HER2増幅固形がんに対するトラスツズマブペルツズブ併用療法のバスケットトライアル	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	150,000	(補委)	厚生労働省
CRP遺伝子多型と食道がんリンパ節転移に関する多施設共同後ろ向き観察研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	2,000,000	(補委)	厚生労働省
切除不能または再発食道癌に対するCF(シスプラチン+5FU)療法とbDCF(biweeklyドセタキセル+CF)療法のランダム化第Ⅲ相比較試験	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	14,900,000	(補委)	日本学術振興会
胃癌エクソソームマーカー候補群の臨床的有用性評価と性状解析	小野 啓	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
肝内胆管癌癌源・癌細胞の可塑性と癌間質微小環境御による新規治療法の開発	前澤 善朗	糖尿病・代謝・内分泌内科	5,300,000	(補委)	日本学術振興会
内臓脂肪による免疫老化と慢性炎症が手術侵襲に及ぼす影響とオステオポンチンの関与	越坂 理也	糖尿病・代謝・内分泌内科	700,000	(補委)	日本学術振興会
肝胆膵領域癌におけるLGR5を標的としたSTAT3活性抑制による新規治療の開発	石川 崇広	糖尿病・代謝・内分泌内科	900,000	(補委)	日本学術振興会
分泌蛋白を含む癌微小環境と補体因子による膵胆道癌進展機構の解明と測定系の開発	加藤 尚也	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,600,000	(補委)	日本学術振興会
膵胆道癌の新規血清マーカー探索及び癌微小環境蛋白の網羅的Secretome解析	加藤 尚也	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
分泌蛋白を含む癌微小環境と補体因子による膵胆道癌進展機構の解明と測定系の開発	熊谷 仁	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
NETsを介した膵臓癌EMT-MET plasticity機構の解明	木下 大輔	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
肝内胆管癌におけるIL-32-Gankyrin axisを介した癌進展機序の解明	小出 尚史	糖尿病・代謝・内分泌内科	600,000	(補委)	日本学術振興会
障害肝における肝障害後肝再生機構の解明と再生促進治療開発:肝切除術の適応拡大へ	鈴木 佐和子	糖尿病・代謝・内分泌内科	200,000	(補委)	日本学術振興会
膵癌進展進展機構に関わるC4BPA-CD40 axisの機能解析および治療開発	藤本 真徳	糖尿病・代謝・内分泌内科	900,000	(補委)	日本学術振興会
胆嚢癌におけるPD-L1発現抑制を目標とした新規癌免疫療法の追求	松宮 護郎	心臓血管外科	6,300,000	(補委)	日本学術振興会
大腸癌の転移制御におけるSmurf2-YY1axisの役割	松浦 馨	心臓血管外科	185,808	(補委)	日本学術振興会
機械学習により層別化した化学療法未導入検体の解析による膵癌の化学療法抵抗性の解明	乾 友彦	心臓血管外科	2,000,000	(補委)	日本学術振興会
肝胆膵領域癌におけるIRG1を介した抗炎症作用に基づく新規治療戦略	諫田 朋佳	心臓血管外科	2,500,000	(補委)	日本学術振興会
遺伝子改変前脂肪細胞を用いた乳癌抗体療法の開発	坂田 朋基	心臓血管外科	1,800,000	(補委)	日本学術振興会

研究課題:抗酸化物質の微小管作用メカニズムの解明と新たな臨床応用	松宮 護郎 (研究分担者)	心臓血管外科	160,000	補 委	日本医療研究 開発機構
低酸素応答分子を標的とした新規乳癌治療薬の開発	松宮 護郎 (研究分担者)	心臓血管外科	250,000	補 委	日本医療研究 開発機構
和漢薬のエピゲノムを標的とする新規抗癌剤薬の探索及び作用機序の解明	松原 久裕	食道・胃腸外科	7,930,000	委	独立行政法人日 本学術振興会
天然化合物による急性骨髄性白血病のエピジェネティクに対する薬理作用と抗がん機序の解明	早野 康一	食道・胃腸外科	1,170,000	委	独立行政法人日 本学術振興会
肺扁平上皮がんの多面的アプローチによる分子標的治療の開発	村上 健太郎	食道・胃腸外科	2,210,000	委	独立行政法人日 本学術振興会
肝癌感受性遺伝子MICAのシグナル阻害を基盤とした新規治療薬の探索	松本 泰典	食道・胃腸外科	1,430,000	委	独立行政法人日 本学術振興会
新治療法開発のための医薬品・医療機器・再生医療等製品創造と科学の双翼プロジェクト	龍崎 貴寛	食道・胃腸外科	2,340,000	委	独立行政法人日 本学術振興会
無症状及び軽症COVID-19患者に対するネルフィナビルの有効性及び安全性を模索するランダム化非盲検並行群間比較試験	平澤 惣一郎	食道・胃腸外科	1,950,000	補 委	独立行政法人日 本学術振興会
腎障害マーカーL-FABPを用いた抗菌薬の新規投与設計法に関する研究	豊住 武司	食道・胃腸外科	1,950,000	補 委	独立行政法人日 本学術振興会
血液脳関門の薬物透過性を予測する血液マーカーに関する検討	章 逸汀	食道・胃腸外科	300,000	補 委	独立行政法人日 本学術振興会
尿管管障害バイオマーカー及び血中濃度測定によるガンシクロビル用量調節の有用性評価	松原 久裕	食道・胃腸外科	2,020,000	補 委	東京医科歯科 大学
難治性潰瘍性大腸炎の活動指数を共変量としたPPKパラメータの検討	松原 久裕	食道・胃腸外科	84,615	補 委	秋田大学
拠点病院集中型から地域連携を重視したHIV診療体制を構築を目標とした研究	松原 久裕	食道・胃腸外科	750,000	補 委	静岡県立がん センター
NKT細胞再生によるがん免疫治療技術開発拠点	松原 久裕	食道・胃腸外科	1,100,000	補 委	東ソー株式会 社(共同研究)
エピジェネティクス解析とその制御による多面的機能誘導的自家脂肪移植法の確立	大塚 将之	肝胆膵外科	1,000,000	補 委	日本学術振興会
エピジェネティクス編集技術を用いた革新的脂肪移植治療法開発に資する基盤的研究	古川 勝規	肝胆膵外科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
移植後生着細胞からのアプローチによる脂肪細胞遺伝子治療製品の移植効率向上研究	久保木 知	肝胆膵外科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
家族性LCAT欠損症を対象としたLCAT-GMAC治療実用化に向けた医師主導試験	高野 重紹	肝胆膵外科	2,200,000	補 委	日本学術振興会
非ウイルス性慢性炎症に伴う発癌メカニズムの解明と早期血清診断法の確立	高野 重紹	肝胆膵外科	1,000,000	補 委	日本学術振興会
中央集約型と分散型の併用による医療情報共有のためのトラスト(信頼関係)の評価法	酒井 望	肝胆膵外科	1,100,000	補 委	日本学術振興会
がん細胞のリボソーム構成タンパク質の発現解析と転写後調節への関与	賀川 真吾	肝胆膵外科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
臨床検査の異常反応の検出と精度保証の研究	三島 敬	肝胆膵外科	1,100,000	補 委	日本学術振興会
がん遺伝子パネル検査の外部精度評価スキームの戦略的実践によって検査の質向上を図る	小西 孝宜	肝胆膵外科	1,100,000	補 委	日本学術振興会
RaIAとNY-ESO-1を標的とした食道癌血清抗体モニタリングに関する研究	佐々木 亘亮	肝胆膵外科	1,600,000	補 委	日本学術振興会
メタゲノムによる新意義を持つ臨床細菌検査の開発とそれへのDNAメチル化解析の応用	佐藤 豊	肝胆膵外科	2,000,000	補 委	日本学術振興会
ユビキトーム解析による歯周疾患のバイオマーカー開発	佐藤 菜実	肝胆膵外科	1,000,000	補 委	日本学術振興会
緊急支援 新型コロナウイルス感染症対策助成プログラム nCoVのRNA複製酵素を前処理に用いた、その検査の開発「敵の武器を逆利用」	川原 健治	肝胆膵外科	1,900,000	補 委	日本学術振興会
質量分析によるビタミンD関連マーカーの高精度分析およびGC遺伝子多型との関連解析	吉住 有人	肝胆膵外科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
検体・項目多重化によるステロイドホルモンのハイスループットLC/MS検査法の開発	藤本浩司	乳腺甲状腺外科	1,000,000	補 委	日本学術振興会
消化器・難治がんのリボソーム生合成の新規メカニズム解明と診断、治療法への応用	高田 護	乳腺甲状腺外科	1,850,000	補 委	日本学術振興会

計30件

臨床検査値を表記した処方箋が薬物療法の安全性および医療費に与える影響に関する研究	高田 護	乳腺甲状腺外科	2,000,000	補委	高橋産業経済財団
専門職連携のための専門職連携によるFD実践のための基盤研究とプログラム開発	平崎 能郎	和漢診療科	1,300,000	補委	公益財団法人がんの子どもを守る会
英国大学と協働で開発するグローバル・地域包括ケアIPEプログラムの構築	平崎 能郎	和漢診療科	200,000	補委	日本学術振興会
回復期リハビリテーション病棟におけるEBP実装プログラムの検証	滝口裕一	腫瘍内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査 (201A2008)	太和田暁之	腫瘍内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
臨床実習中の学習者に自発的行動を促す新しい対面指導法の開発に関する研究	花岡 英紀	臨床試験部	191,349,489	補委	日本医療研究開発機構
機械学習を用いた医学生におけるアンプロフェッショナルリズムな行動に関する予測モデル	花岡 英紀	臨床試験部	20,000,000	補委	日本医療研究開発機構
腎障害マーカーL-FABPを用いた抗菌薬の新規投与設計法に関する研究	鈴木貴明	薬剤部	520,000	補委	日本学術振興会
血液脳関門の薬物透過性を予測する血液マーカーに関する検討	石川雅之	薬剤部	1,040,000	補委	日本学術振興会
尿細管障害バイオマーカー及び血中濃度測定によるガンシクロビル用量調節の有用性評価	後藤優理	薬剤部	480,000	補委	日本学術振興会
難治性潰瘍性大腸炎の活動指数を共変量としたPPKパラメータの検討	高塚博一	薬剤部	480,000	補委	日本学術振興会
拠点病院集中型から地域連携を重視したHIV診療体制を構築を目標とした研究	鈴木貴明 (研究分担者)	薬剤部	1,000,000	補委	厚生労働省
臨床検査値を表記した処方箋が薬物療法の安全性および医療費に与える影響に関する研究	保ヶ辺雄也	薬剤部	500,000	補委	公益財団法人医療科学研究所
NKT細胞再生によるがん免疫治療技術開発拠点	本橋 新一郎	未来開拓センター	35,000,000	補委	日本医療研究開発機構
エビジェネティクス解析とその制御による多面的機能誘導的自家脂肪移植法の確立	黒田正幸(分担者) (代表者: 窪田 吉孝)	未来開拓センター	1,200,000	補委	日本学術振興会
エビジェネティクス編集技術を用いた革新的脂肪移植治療法開発に資する基盤的研究	黒田正幸(分担者) (代表者: 三川 信之)	未来開拓センター	4,300,000	補委	日本学術振興会
移植後生着細胞からのアプローチによる脂肪細胞遺伝子治療製品の移植効率向上研究	黒田正幸	未来開拓センター	1,100,000	補委	日本学術振興会
家族性LCAT欠損症を対象としたLCAT-GMAC治療実用化に向けた医師主導治験	黒田正幸(分担者) (代表者: 横手 幸太郎)	未来開拓センター	110,000,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
非ウイルス性慢性炎症に伴う発癌メカニズムの解明と早期血清診断法の確立	松下 一之	検査部	412,927	補委	文部科学省
中央集約型と分散型の併用による医療情報共有のためのトラスト(信頼関係)の評価法	松下 一之	検査部	4,700,000	補委	文部科学省
がん細胞のリボソーム構成タンパク質の発現解析と転写後調節への関与	松下 一之	検査部	1,100,000	補委	文部科学省
臨床検査の異常反応の検出と精度保証の研究	松下 一之	検査部	100,000	補委	文部科学省
がん遺伝子パネル検査の外部精度評価スキームの戦略的実践によって検査の質向上を図る	松下 一之	検査部	300,000	補委	文部科学省
RalAとNY-ESO-1を標的とした食道癌血清抗体モニタリングに関する研究	松下 一之	検査部	500,000	補委	文部科学省
メタゲノムによる新意義を持つ臨床細菌検査の開発とそれへのDNAメチル化解析の応用	西村 基	検査部	800,000	補委	文部科学省
ユビキトーム解析による歯周疾患のバイオマーカー開発	西村 基	検査部	100,000	補委	文部科学省
緊急支援 新型コロナウイルス感染症対策助成プログラム nCoVのRNA複製酵素を前処理に用いた、その検査の開発「敵の武器を逆利用」	西村 基	検査部	2,000,000	補委	中谷医工計測技術振興財団
質量分析によるビタミンD関連マーカーの高精度分析およびGC遺伝子多型との関連解析	石毛 崇之	検査部	1,000,000	補委	文部科学省
検体・項目多重化によるステロイドホルモンのハイスループットLC/MS検査法の開発	石毛 崇之	検査部	50,000	補委	文部科学省
消化器・難治がんのリボソーム生合成の新規メカニズム解明と診断、治療法への応用	北村 浩一	検査部	400,000	補委	金沢大学がん進展制御研究所

計30件

専門職連携のための専門職連携によるFD実践のための基盤研究とプログラム開発	伊藤彰一	総合医療教育研修センター	1,170,000	補委	日本学術振興会
英国大学と協働で開発するグローバル・地域包括ケアIPEプログラムの構築	朝比奈真由美	総合医療教育研修センター	1,430,000	補委	日本学術振興会
回復期リハビリテーション病棟におけるEBP実装プログラムの検証	酒井 郁子	総合医療教育研修センター 大学院看護学研究院	3,640,000	補委	日本学術振興会
特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用 に影響する要因の調査(201A2008)	酒井 郁子	総合医療教育研修センター 大学院看護学研究院	16,161,000	補委	厚生労働省
臨床実習中の学習者に自発的行動を促す新しい対面指導法の開発に関する研究	横尾 英孝	総合医療教育研修センター 糖尿病・代謝・内分泌内科	520,000	補委	日本学術振興会
機械学習を用いた医学生におけるアンプロフェッショナルリズムな行動に関する予測モデル	鋪野 紀好	総合医療教育研修センター 総合診療科	2,600,000	補委	日本学術振興会
医療情報データベースに保存された医療情報の実践的な利活用のためのデータ検証(バリデーション)業務	鈴木 隆弘	企画情報部	10,840,908	補委	医薬品医療機器総合機構
MID-NET®データの特性解析及びデータ抽出条件・解析手法等に関する研究	鈴木 隆弘	企画情報部	4,000,000	補委	医薬品医療機器総合機構
加齢に伴う終末糖化産物の蓄積が腰痛関連神経経路に及ぼす影響に関する臨床・基礎研究	折田純久	整形外科	3,700,000	補委	日本学術振興会
凍結乾燥多血小板血症の薬理作用の解明と新規骨形成材料の開発	鈴木昌彦	整形外科	3,300,000	補委	日本学術振興会
体幹筋を基盤にしたサルコペニアの定義の提唱と腰痛等の臨床症状との相関に関する研究	大鳥精司	整形外科	3,300,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞由来多血小板血漿の開発と骨癒合促進効果に関する研究	志賀康浩	整形外科	3,300,000	補委	日本学術振興会
人工知能を用いたradiomicsによる急性期脊髄損傷の予後予測	沖松 翔	整形外科	500,000	補委	JA共済
Muse細胞投与による関節軟骨損傷修復の検討-変形性膝関節症の予防-	渡邊翔太郎	整形外科	300,000	補委	ちば県民保健 予防基金事業
3D MR neurographyを用いた低侵襲股関節手術における大腿神経の解剖学的検討に関する研究	萩原茂生	整形外科	500,000	補委	整形災害外科学 研究助成財団
日本人における逆置換型人工肩関節の研究~肩甲骨形態からインプラントデザインまで~	橋本瑛子	整形外科	3,200,000	補委	日本学術振興会
人工知能を用いたCTによる転移性脊椎腫瘍の自動検出と原発巣の推定プログラムの開発	牧聡	整形外科	200,000	補委	「先端がん医療」研究助成
大腿骨近位部骨折のための純国産人工股関節の開発に関する研究	中村順一	整形外科	900,000	補委	日本損害保険協会
Deep learning-based radiomics can predict the neurological prognosis of acute cervical spinal cord injury	牧聡	整形外科	461,510	補委	AO SPINE
「AI(Radiomics)を用いた整形外科疾患の機能予後予測」に関する研究	牧聡	整形外科	3,300,000	補委	日本整形外科学会
健康寿命を延ばす純国産人工股関節の研究開発	中村順一	整形外科	1,050,000	補委	日本股関節研究 振興財団

計22件
合計352件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Saito Y, Cristea E, Bouras G, et al.	循環器内科	Long-Term Serial Functional Evaluation After Implantation of the Fantom Sirolimus-Eluting Bioresorbable Coronary Scaffold	Catheter Cardiovasc Interv. 2020. doi: 10.1002/ccd.28804.	Original Article
2	Saito Y, Kelbak H, Xu B, et al.	循環器内科	Abluminal Groove-Filled Biodegradable Polymer Sirolimus-Eluting Stent Versus Durable Polymer Everolimus-Eluting Stent: 3-Year Results of the TARGET All Comers Trial	EuroIntervention. 2020. doi: 10.4244/EIJ-D-20-00344.	Original Article
3	Saito Y, Wijns W, Baumbach A, Xu B, Kelbak H, Zheng M, Morel M, Anderson R, Schachinger V, Lansky A	循環器内科	Differential impact of abluminal groove-filled biodegradable-polymer sirolimus-eluting stent versus durable-polymer everolimus-eluting stent	Catheter Cardiovasc Interv. 2021. doi: 10.1002/ccd.29468.	Original Article
4	Kato K, Cammann VL, Napp LC, et al.	循環器内科	Prognostic impact of acute pulmonary triggers in patients with takotsubo syndrome: new insights from the International Takotsubo Registry.	ESC Heart Fail. 2021;8:1924-1932.	Original Article
5	Tateishi K, Kitahara H, Saito Y, et al.	循環器内科	Impact of clinical presentations on lipid core plaque assessed by near-infrared spectroscopy intravascular ultrasound.	Int J Cardiovasc Imaging. 2021;37:1151-1158.	Original Article
6	Nakano Ma, Kondo Y, Kajiyama T, et al.	循環器内科	Estimation of the accessory pathway location of the manifest Wolf-Parkinson-White syndrome using synthesized right-sided chest leads.	J Interv Card Electrophysiol. 2020 Oct;59(1):43-48	Original Article
7	Kajiyama T, Kondo Y, Nakano M, et al.	循環器内科	Peak Deflection Index as a Predictor of a Free-wall Implantation of Contemporary Leadless Pacemakers.	J Interv Card Electrophysiol. 2021 Mar;60(2):239-245	Original Article
8	Nakano Mi, Kondo Y, Nakano Ma, et al.	循環器内科	Predicting therapies in Japanese hypertrophic cardiomyopathy patients with an implantable cardioverter-defibrillator using the 2014 European Society of Cardiology guidelines.	Heart Vessels. 2021 Jan;36(1):99-104	Original Article
9	Kondo Y, Noda T, Sato Y, et al.	循環器内科	Comparison of 2-year Outcomes between Primary and Secondary Prophylactic Use of Defibrillators in Patients with Coronary Artery Disease: A Prospective Propensity Score-Matched Analysis from the Nippon Storm Study.	Heart Rhythm O2. 2021 online.	Original Article
10	Ono R, Kajiyama T, Miyauchi H, et al.	循環器内科	Austrian syndrome associated with mitral paravalvular pneumococcal abscess.	QJM. 2021 in press	Case report
11	Takaoka H, Uehara M, Saito Y, et al.	循環器内科	Improved Diagnostic Performance of New Generation 320-Slice CT with Forward projected model-based Iterative Reconstruction Solution for Assessment of Late Enhancement in Left Ventricular Myocardium.	Internal Medicine. 2020 Volume 59 Issue 17 Pages 2095	Original Article
12	Saito Y, Mori N, Murase T, et al.	循環器内科	Greater coronary lipid core plaque assessed by near-infrared spectroscopy intravascular ultrasound in patients with elevated xanthine oxidoreductase: A mechanistic insight	Heart Vessels. 2021;36:597-604.	Original Article
13	Saito Y, Nishi T, Wakabayashi S, et al.	循環器内科	Validation of the ABCD-GENE score to identify high platelet reactivity in East Asian patients undergoing percutaneous coronary intervention	Int J Cardiol. 2021;327:15-18.	Original Article
14	Saito Y, Tanaka A, Node K, et al.	循環器内科	Uric acid and cardiovascular disease: A clinical review	J Cardiol. 2020. doi: 10.1013/j.jcc.2020.12.013.	Original Article
15	Saito Y, Nishi T, Saito K, et al.	循環器内科	Clinical implications and debates on the ISCHEMIA trial	J Cardiol. 2020. doi: 10.1013/j.jcc.2020.12.013.	Review
16	Kitahara H, Mori N, Saito Y, et al.	循環器内科	Plaque Stabilization by Proprotein Convertase Subtilisin/Kexin Type 9 Inhibitor in a Patient With Familial Hypercholesterolemia Undergoing Percutaneous Coronary Intervention.	Circ J. 2021. doi: 10.1253/circj.CJ-21-0192.	Case report
17	Kitahara H, Mori N, Saito Y, et al.	循環器内科	Prevalence of Achilles tendon xanthoma and familial hypercholesterolemia in patients with coronary artery disease undergoing percutaneous coronary intervention.	Heart Vessels. 2019;34:1595-9.	Original Article

計17件

18	Kitahara H, Nakayama T, Fujimoto Y, et al.	循環器内科	Association between Achilles tendon xanthoma and severity of coronary artery disease in patients undergoing percutaneous coronary intervention.	J Cardiol. 2020;75:654-658.	Original Article
19	Tateishi K, Abe D, Suzuki K, et al.	循環器内科	Association Between Multivessel Coronary Artery Disease and Return of Spontaneous Circulation Interval in Acute Coronary Syndrome Patients with Out-of-Hospital Cardiac Arrest.	Int Heart J. 2019 Sep;60:1043-1049.	Original Article
20	Tateishi K, Saito Y, Kitahara H, et al.	循環器内科	Increased platelet inhibition after switching from prasugrel to low-dose ticagrelor in Japanese patients with prior myocardial infarction.	J Cardiol. 2020 May; 75: 473-477.	Original Article
21	Takahira H, Miyazawa K, Kajiyama T, et al.	循環器内科	Efficacy of amiodarone in a case with pre-excited atrial fibrillation with a precarious conduction property of the accessory pathway.	HeartRhythm Case Rep, 2020 Jul 17;6(11):823-826	Case report
22	Tateishi K, Saito Y, Kitahara H, et al.	循環器内科	Vasospastic angina and overlapping cardiac disorder in patients resuscitated from cardiac arrest.	Heart Vessels. 2021 Mar;36(3):321-329	Original Article
23	Ono R, Shikino K, Kobayashi Y.	循環器内科	Visible bigeminal pulses with tortuous common carotid artery.	BMJ Case Reports. 2021;14(4):e242990.	Case report
24	Nakagomi A, Sunami Y, Kawasaki Y, et al.	循環器内科	Sex difference in the association between surrogate markers of insulin resistance and arterial stiffness	J Diabetes Complications.34:107442;2020	Original Article
25	Kobayashi T, Takaoka H, Sasaki H, et al.	循環器内科	Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation for Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy Under Extracorporeal Membrane Oxygenation Support.	JACC case reports 2020;2:1917-22.	Case report
26	Yamazaki T, Kajiyama T, Takaoka H, et al.	循環器内科	Extremely Rare Anomaly of Native Coronary Artery Bypass from Left Internal Thoracic Artery Compensating for Hypoplastic Coronary Arteries.	Circ J 2021;85:1587	Case report
27	Niwano A, Sasaki H, Takaoka H, et al.	循環器内科	Almost Three Decades Follow-up of Pseudo-Aneurysm of Intra-valvular Fibrosa.	Circ J doi: 10.1253/circj.CJ-21-0507	Case report
28	Iwai Y, Nemoto MW, et al.	放射線科	Comparison of CT-based and MRI-based high-risk clinical target volumes in image guided-brachytherapy for cervical cancer, referencing recommendations from the Japanese Radiation Oncology Study Group (JROSG) and consensus statement guidelines from the Groupe Européen de Curietherapie-European Society for Therapeutic Radiology and Oncology (GEC ESTRO)	Jpn J Radiol. 2020;38(9):899-905	Original Article
29	Yokota H, et al.	放射線科	Focal cortical dysplasia imaging discrepancies between MRI and FDG-PET: Unique association with temporal lobe location	Seizure 2020;81:180-185.	Original Article
30	Ohta J, Yokota H, et al.	放射線部	Evaluation of Radiation Protection Methods for Assistant Staff during CT Imaging in High-energy Trauma: Lens Dosimetry with a Phantom Study.	Healthy Phys 2021; 120:635-640.	Original Article
31	Saiga A, Yokota H, et al.	放射線科	^{131}I -6 β -iodomethyl-19-norcholesterol adrenal scintigraphy as an alternative to adrenal venous sampling in differentiating aldosterone-producing adenoma from bilateral idiopathic hyperaldosteronism	Nucl Med Commun. 2020 Dec;41(12):1226-1233.	Original Article
32	Saiga A, et al.	放射線科	Effectiveness of lymphatic cannulation in case of non-applicable intranodal lymphangiography	J Vasc Surg Cases Innov Tech. 2020 Oct 19;7(1):97-99.	Case report
33	Tate S, Nishikimi K, Matsuoka A, et al.	婦人・周産期母性科	Aggressive surgery for advanced ovarian cancer decreases the risk of intraperitoneal recurrence.	Int J Clin Oncol. 2020 Sep;25(9):1726-1735.	Original Article
34	Nishikimi K, Tate S, Matsuoka A, et al.	婦人・周産期母性科	Aggressive surgery could overcome the extent of initial peritoneal dissemination for advanced ovarian, fallopian tube, and peritoneal carcinoma.	Sci Rep. 2020 Dec 4;10(1):21307.	Original Article
35	Tate S, Nishikimi K, Matsuoka A, et al.	婦人・周産期母性科	Tailored-dose chemotherapy with gemcitabine and irinotecan in patients with platinum-refractory/resistant ovarian or primary peritoneal cancer: a phase II trial.	J Gynecol Oncol. 2021 Jan;32(1):e8	Original Article
36	Usui H, Sato A, Shozu M.	婦人・周産期母性科	Parental contribution to trisomy in heterozygous androgenetic complete moles.	Sci Rep. 2020 Oct 13;10(1):17137.	Original Article
37	Usui H, Sato A, Ota M, et al.	婦人・周産期母性科	Androgenetic Complete Hydatidiform Moles With p57KIP2-Positive Immunostaining.	Am J Clin Pathol. 2020 Nov;4:154(6):776-783	Original Article
38	Usui H, Shozu M.	婦人・周産期母性科	Spermatogonium-Derived Complete Hydatidiform Mole.	N Engl J Med. 2021 Mar 11;384(10):936-943	Case report

39	Yagisawa K, Baba T, Kaiho T, Yokouchi H, Yamamoto S.	眼科学	The Use of Inner Retinectomy to Relieve Inner Retinal Foreshortening Causing Retinal Detachment in the Setting of Branch Retinal Vein Occlusion	Case Rep Ophthalmol Med 2020, 8853425, 5 pages	Case report
40	Iwase T, Baba T, Kakisu M, Yokouchi H, Yamamoto S.	眼科学	Comparison of Internal Limiting Membrane Peeling and Flap Removal to Flap Insertion on Visual Outcomes in Highly Myopic Eyes with Macular-Hole Retinal Detachment	Ophthalmologica 2020, Jul 15. doi: 10.1159/000510150	Original article
41	Miura G, Baba T, Tatsumi T, Iwase T, Yokouchi H, Yamamoto S.	眼科学	Comparisons of surgical outcomes after epiretinal membrane peeling in the myopic eyes with long to that with normal axial length	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2021; 259 (3); 593–599.	Original article
42	Tatsumi T, Baba T, Yokouchi H, Yamamoto S	眼科学	Nonperfused Peripheral Retinal Area in Eyes with Chronic Rhegmatogenous Retinal Detachment	Case Rep Ophthalmol 2020;11:385–390.	Case report
43	Iwase T, Yokouchi H, Kitahashi M, Kubota-Taniai M, Baba T, Yamamoto S	眼科学	Long-Term Effects of Half-Time Photodynamic Therapy on Retinal Sensitivity in Eyes with Chronic Central Serous Chorioretinopathy	Biomed Res Int. 2020;2020:3190136. Published 2020 Aug 17. doi:10.1155/2020/3190136	Original article
44	Miura G, Baba T, Takeishi M, Tatsumi T, Yokouchi H, Yamamoto S	眼科学	Ocular syphilis with optic disc neovascularization treated with bevacizumab evaluated by OCT angiography and electroretinography	Journal of Ophthalmic Inflammation and Infection 2020; 10:28.	Case report
45	Tatsumi T, Oshitari T, Baba T, Takatsuna Y, Yamamoto S	眼科学	Effects of Switching from Anti-VEGF Treatment to Triamcinolone Acetonide in Eyes with Refractory Macular Edema Associated with Diabetic Retinopathy or Retinal Vein Occlusion	Biomed Res Int. 2020: Article ID 4529850. doi:10.1155/2020/4529850	Original article
46	Tatsumi T, Baba T, Iwase T, Nizawa T, Miura G, Yokouchi H, Yamamoto S	眼科学	Outcomes of Vitrectomy Combined with Scleral Buckling for Eyes with Early Recurrence of Simple Rhegmatogenous Retinal Detachment Previously Treated by Pars Plana Vitrectomy	J Ophthalmol. 2020 Dec 17;2020:6637143. doi: 10.1155/2020/6637143.	Original article
47	Iwase T, Baba T, Saito Y, Nizawa T, Yokouchi H, Kubota-Taniai M, Kitahashi M, Yamamoto S	眼科学	Surgical outcomes of vitrectomy for breakthrough vitreous hemorrhage in eyes with exudative age-related macular degeneration	International Ophthalmol 2021; 41: 1835–1844.	Original article
48	Hayashi Y, Tatsumi T, Oshitari T, Kaiho T, Takatsuna Y, Arai M, Baba T, Yamamoto S	眼科学	Comparisons of One to Three Monthly Injections of Aflibercept for Diabetic Macular Edema by Practical Protocol	J Diabetes Res. 2021 Feb 12;2021:1374891. doi: 10.1155/2021/1374891.	Original article
49	Baba T, Miura G, Tatsumi T, Sakurai M, Yamamoto S	眼科学	Characteristics and surgical outcomes of rhegmatogenous retinal detachments that develop after intravitreal injections	Jpn J Ophthalmol 2021; 65: 492–496.	Original article
50	Yamamoto Y, Matsusaka K, Fukuyo M, Rahmutulla B, Matsue H, Kaneda A.	皮膚科	Higher Methylation Subtype of Malignant Melanoma and Its Correlation With Thicker Progression and Worse Prognosis.	Cancer Med. 2020;9:7194–7204.	Original Article
51	Miyachi H, Matsue H.	皮膚科	Post-vaccination subcutaneous aluminum granuloma.	IDCases. 2020;22:e00951.	Case report
52	Hashimoto H, Togawa Y, Aoyagi N, Kurita R, Oguma R, Iwasawa M, Suehiro K, Matsue H.	皮膚科	Topical steroid application can induce branched/reticular vessels in Bowen disease on the upper trunk.	Dermatol Reports. 2020;12:8835.	Case report
53	Kurita R, Togawa Y. Suehiro K, Matsue H.	皮膚科	A case of pigmented Bowen’s disease on the finger mimicking melanoma showing chaos pattern on dermoscopy.	Dermatol Pract Concept. 2020;10:e2020079.	Case report
54	Iseki K, Negishi M, Nakano M, Togawa Y, Matsue H.	皮膚科	Differences in dermoscopic findings between early and mature clear cell acanthoma	J Dermatol. 2020;47:646–650.	Case report
55	Namekawa T	泌尿器科	HIF1 α inhibitor 2-methoxyestradiol decreases NRN1 expression and represses in vivo and in vitro growth of patient-derived testicular germ cell tumor spheroids.	Cancer Lett. 2020 Oct 1;489:79–86. doi: 10.1016/j.canlet.2020.05.040. Epub 2020 Jun 13.	Original Article
56	Ando K	泌尿器科	Prognostic Value of High-Sensitivity Modified Glasgow Prognostic Score in Castration-Resistant Prostate Cancer Patients Who Received Docetaxel	Cancers (Basel). 2021 Feb 12;13(4):773. doi: 10.3390/cancers13040773	Original Article
57	Tamura T	泌尿器科	Extracellular Vesicles in Bone Metastasis: Key Players in the Tumor Microenvironment and Promising Therapeutic Targets.	Int J Mol Sci. 2020 Sep 12;21(18):6680.doi:10.3390/ijms21186680.	Review
58	Ohki Y, Okamoto Y, Iinuma T et al,	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Local fungus-specific Immunoglobulin E production in chronic rhinosinusitis with nasal polyps.	Rhinol. 2020.4	Original Article
59	Kurokawa T, Nakagawa T, Matsusaka K, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Establishment of epigenetic markers to predict irradiation efficacy against oropharyngeal cancer.	Cancer Sci. 2020.4	Original Article

60	Nakagawa T, Matsusaka K, Misawa K, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Stratification of HPV-associated and HPV-negative oropharyngeal squamous cell carcinomas based on DNA methylation epigenotypes.	Int J Cancer. 2020.5	Original Article
61	Suzuki T, Seki Y, Matsumura T, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	"Gas" laryngopharyngeal reflux cause unexplained chronic cough.	Auris Nasus Larynx 2020.6	Original Article
62	Koshizuka K, Sakurai D, Sunagane M, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Toxic epidermal necrolysis associated with nivolumab treatment for head and neck cancer.	Clin Case Rep. 2020.12	Original Article
63	Funakoshi U, Yonekura S, Iinuma T, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	The influence of tonsillectomy on allergic diseases in pediatric patients	Int J Pediatr Otorhinolaryngol. 2021.1	Original Article
64	Yoshii S, Shibuya K, Yokota H, et al.	小児科	Magnetic resonance neurography in diagnosing childhood chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy.	Brain Dev. 2021 Feb;43(2):352-356.	Case report
65	Shiohama T, Chew B, Levman J, et al.	小児科	Quantitative analyses of high-angular resolution diffusion imaging (HARDI)-derived long association fibers in children with sensorineural hearing loss.	Int J Dev Neurosci. 2020 Dec;80(8):717-729.	Original Article
66	Uchikawa H, Fujii K, Shiohama T, et al.	小児科	Specific temperament in patients with nevroid basal cell carcinoma syndrome.	Pediatr Int. 2021 Feb;63(2):177-182.	Original Article
67	Kobayashi H, Shiohama T, Nakashima M, et al.	小児科	Fulminant myocarditis following recurrent generalized erythrodermatoderma in a child with a heterozygous GJA1 variant.	Am J Med Genet A. 2020 Aug;182(8):1933-1938.	Case report
68	Shiohama T, Levman J, Vasung L, et al.	小児科	Brain morphological analysis in PTEN hamartoma tumor syndrome.	Am J Med Genet A. 2020 May;182(5):1117-1129.	Original Article
69	Shiohama T, Nakashima M, Ikehara H, et al.	小児科	Low-prevalence mosaicism of chromosome 18q distal deletion identified by exome-based copy number profiling in a child with cerebral hypomyelination.	Congenit Anom (Kyoto). 2020 May;60(3):94-96.	Case report
70	Nakamura Y, Takahashi H, Takaya A, et al.	小児科	Staphylococcus Agr virulence is critical for epidermal colonization and associates with atopic dermatitis development.	Sci Transl Med. 2020 Jul 8;12(551):eaay4068.	Original Article
71	Nakano T, Ochiai S, Suzuki S, et al.	小児科	Breastfeeding promotes egg white sensitization in early infancy.	Pediatr Allergy Immunol. 2020 Apr;31(3):315-318.	Original Article
72	Tachibana M, Hashimoto T, Tanaka M, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Patterns in Psychiatrists' Prescription of Valproate for Female Patients of Childbearing Age With Bipolar Disorder in Japan: A Questionnaire Survey.	Front Psychiatry. 2020 Apr 15;11:250.	Original Article
73	Kanahara N, Nakata Y, Iyo M.	精神神経科 子どものこころ診療部	A preliminary exome sequence in three patients with tardive dystonia.	Psychiatr Genet. 2020 Apr;30(2):57-59.	Case report
74	Takase M, Kimura H, Kanahara N, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Plasma monoamines change under dopamine supersensitivity psychosis in patients with schizophrenia: A comparison with first-episode psychosis.	J Psychopharmacol. 2020 May;34(5):540-547.	Original Article
75	Kobayashi R, Oda Y, Hayatsu R, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Successful rechallenge with paliperidone after clozapine treatment for a patient with dopamine supersensitivity psychosis.	SAGE Open Med Case Rep. 2020 Jun 7;8:2050313X20929561.	Case report
76	Oishi K, Niitsu T, Kanahara N, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Genetic risks of schizophrenia identified in a matched case-control study.	Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci. 2021 Jun;271(4):775-781.	Original Article
77	Shiina A, Niitsu T, Kobori O, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Relationship between perception and anxiety about COVID-19 infection and risk behaviors for spreading infection: A national survey in Japan.	Brain Behav Immun Health. 2020 Jul;6:100101.	Original Article
78	Okato A, Hashimoto T, Tanaka M, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Inter-agency collaboration factors affecting multidisciplinary workers' ability to identify child maltreatment.	BMC Res Notes. 2020 Jul 6;13(1):323.	Original Article
79	Nakata Y, Kanahara N, Kimura A, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Autistic traits and cognitive profiles of treatment-resistant schizophrenia.	Schizophr Res Cogn. 2020 Jul 27;22:100186.	Original Article
80	Yoshino K, Oda Y, Kimura M, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	The alterations of glutamate transporter 1 and glutamine synthetase in the rat brain of a learned helplessness model of depression.	Psychopharmacology (Berl). 2020 Aug;237(8):2547-2553.	Original Article
81	Niitsu T, Hata T, Nishimoto M, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	A randomized-controlled trial of blonanserin and olanzapine as adjunct to antipsychotics in the treatment of patients with schizophrenia and dopamine supersensitivity psychosis: The ROADS study.	Asian J Psychiatr. 2020 Oct;53:102369.	Original Article

計22件

82	Tanemura N, Sasaki T, Sato J, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Real World Survey of Patient Engagement Status in Clinical Research: The First Input from Japan.	Patient. 2020 Oct;13(5):623–632.	Original Article
83	Kanahara N, Takase M, Sasaki T, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	The effectiveness of very slow switching to aripiprazole in schizophrenia patients with dopamine supersensitivity psychosis: a case series from an open study.	Int Clin Psychopharmacol. 2020 Nov;35(6):338–344.	Original Article
84	Kimura H, Kanahara N, Iyo M.	精神神経科 子どものこころ診療部	Rationale and neurobiological effects of treatment with antipsychotics in patients with chronic schizophrenia considering dopamine supersensitivity.	Behav Brain Res. 2021 Jan 15;403:113126.	Review
85	Shiina A, Niitsu T, Iyo M.	精神神経科 子どものこころ診療部	Need for self-medication using over-the-counter psychoactive agents: A national survey in Japan.	PLoS One. 2021 Jan 25;16(1):e0245866.	Original Article
86	Niitsu T, Oda Y, Idemoto K, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Association between serum levels of glial cell line-derived neurotrophic factor and inattention in adult patients with attention deficits/hyperactivity disorder.	Psychiatry Res. 2021 Feb;296:113674.	Original Article
87	Kanahara N, Nakata Y, Iyo M.	精神神経科 子どものこころ診療部	Genetic association study detected misalignment in previous whole exome sequence: association study of ZNF806 and SART3 in tardive dystonia.	Psychiatr Genet. 2021 Feb 1;31(1):29–31.	Original Article
88	Shiina A, Niitsu T, Kobori O, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Perception of and anxiety about COVID-19 infection and risk behaviors for spreading infection: an international comparison.	Ann Gen Psychiatry. 2021 Feb 18;20(1):13.	Original Article
89	Kimura M, Oda Y, Oishi K, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Effects of repeated electroconvulsive shocks on dopamine supersensitivity psychosis model rats.	Schizophr Res. 2021 Feb;228:1–6.	Original Article
90	Idemoto K, Ishima T, Niitsu T, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Platelet-derived growth factor BB: A potential diagnostic blood biomarker for differentiating bipolar disorder from major depressive disorder.	J Psychiatr Res. 2021 Feb;134:48–56.	Original Article
91	Kimura M, Oda Y, Kimura H, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Reduction of dopamine and glycogen synthase kinase-3 signaling in rat striatum after repeated administration of haloperidol.	Pharmacol Biochem Behav. 2021 Mar;202:173114.	Original Article
92	Nangaku M, Yoshino K, Oda Y, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Astroglial glutamate transporter 1 and glutamine synthetase of the nucleus accumbens are involved in the antidepressant-like effects of allopregnanolone in learned helplessness rats.	Behav Brain Res. 2021 Mar 5;401:113092.	Original Article
93	Tanemura N, Sasaki T, Sato J, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Study factors associated with the incompleteness of clinical trials that include pediatric patients: a retrospective analysis of the European Clinical Trials Database and a lesson from the European region.	Trials. 2021 Mar 12;22(1):204.	Original Article
94	Nakata Y, Kanahara N, Kimura A, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Oxytocin system dysfunction in patients with treatment-resistant schizophrenia: Alterations of blood oxytocin levels and effect of a genetic variant of OXTR.	J Psychiatr Res. 2021 Mar 30;138:219–227.	Original Article
95	Seki R, Hashimoto T, Tanaka M, et al.	精神神経科 子どものこころ診療部	Identification of psychological features and development of an assessment tool for event-related psychological distress after experiencing non-traumatic stressful events.	PLoS One. 2021 Mar 31;16(3):e0249126.	Original Article
96	Masashi Shiiba, Takao Baba, Hideki Tanzawa et al.	歯科・顎・口腔外科	Characteristic of Langerhans cell histiocytosis in oral and maxillofacial regions	Oral Science International Volume 17, Number 2 page94–96 2020.1.5	Case report
97	Manabu Iyoda, Kazuyuki Koike, Hideki Tanzawa et al.	歯科・顎・口腔外科	Basaloid squamous cell carcinoma in the mandibular gingiva	Oral Science International Volume 17, Issue1 page47–49 2020.1.9	Case report
98	Jun-Ichiro Yamamoto, Atsushi Kasamatsu, Hideki Tanzawa et al.	歯科・顎・口腔外科	Multiple pigmentations in Laugier-Hunziker-Baran syndrome	Oral Science International Volume 17, Issue2 pages 103–105 2020.3.12	Case report
99	Aika Tanzawa, Masashi Shiiba, Hiroshi Shirasawa et al.	歯科・顎・口腔外科	Comprehensive gene expression analysis of semaphorins in oral squamous cell carcinoma	Oral Science International Volume 17, Issue2, page67–72 2020.3.12	Case report
100	Ayumi Yamamoto, Masashi Shiiba, Katsuhiko Uzawa et al.	歯科・顎・口腔外科	Rare case of Kimura disease of the upper lip: A case report	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology Volume 32, Issue 5 pages 380–	Case report
101	Yukinao Kozu, Masashi Shiiba, Hideki Tanzawa et al.	歯科・顎・口腔外科	A molecular target drug, Cetuximab, combined chemotherapy in four patients with recurrence and/or metastases of oral squamous cell carcinoma.	Chibaigaku Volume 96, Issue 6, Pages 125–132 2021.12.10	Original Article

102	Yutaro Kase, Katsuhiro Uzawa, Hideki Tanzawa et al.	歯科・顎・口腔外科	Engineered exosomes delivering specific tumor-suppressive RNAi attenuate oral cancer progression	Scientific reports 2021.3.15	Original Article
103	Nozaki-Taguchi N, Hayashida T, Isono S.	麻酔・疼痛・緩和医療科	Qualitative measurement of opioid effects on pain and dyspnea: gender difference in the sensitivity.	Journal of Anesthesia Clinical Report. 2020 Oct 20;6(1):85.	Original Article
104	Nishino T, Jin H, Nozaki-Taguchi N, et al.	麻酔・疼痛・緩和医療科	A high concentration of sevoflurane induces gasping breaths in mice.	Respiratory Physiology Neurobiology. 2020 Aug;279:103445.	Original Article
105	Son K, Yamada T, Tarao K, et al.	麻酔・疼痛・緩和医療科	Effects of Cardiac Surgery and Salvaged Blood Transfusion on Coagulation Function Assessed by Thromboelastometry.	Journal of Cardiothorac Vascular Anesthesia. 2020 Sep;34(9):2375-2382.	Original Article
106	Ishibashi K, Kitamura Y, Kato S, et al.	麻酔・疼痛・緩和医療科	Changes in laryngeal airway patency in response to complete reversal of rocuronium-induced paralysis with sugammadex in small children with a supraglottic airway: protective effect of fentanyl?	British Journal of Anaesthesia. 2020 Jul;125(1):e158-e160.	Others
107	Yoshida Y	脳神経外科	Elevated levels of autoantibodies against DNAJC2 in sera of patients with atherosclerotic diseases.	Heliyon 6(8): e04661, 2020	Original Article
108	Watanabe Y	脳神経外科	In Reply to the Letter to the Editor Regarding "Postoperative Cerebellar Cyst with Pseudomeningocele After Tumor Removal at the Craniovertebral Junction".	World Neurosurg 133:455, 2020	Letter
109	Ozaki K	脳神経外科	Isolated hypoglossal nerve palsy due to an osteophyte with atlantoaxial dislocation.	NMC Case Rep J 7: 201-204, 2020	Case report
110	Ishibashi F, Sakairi Y, Iwata T, et al.	呼吸器外科	A phase I study of loco-regional immunotherapy by transbronchial injection of alpha-galactosylceramide-pulsed antigen presenting cells in patients with lung cancer.	Clin Immunol. 2020 May 6;215:108457.	Original Article
111	Koshikawa K, Terada J, Abe M, et al.	呼吸器内科	Clinical characteristics and risk factors of drug-induced lung injury by ALK tyrosine kinase inhibitors: A single center retrospective analysis.	Thorac Cancer. 2020 Jun;11(6):1495-1502.	Original Article
112	Abe M, Tsushima K, Yoshioka K, et al.	呼吸器内科	The Gender-Age-Physiology system as a prognostic model in patients with idiopathic pulmonary fibrosis treated with nintedanib: a longitudinal cohort study.	Adv Respir Med. 2020 Oct ;88(5):369-376.	Original Article
113	Sanada TJ, Hosomi K, Shoji H, et al.	呼吸器内科	Gut microbiota modification suppresses the development of pulmonary arterial hypertension in an SU5416/hypoxia rat model.	Pulm Circ. 2020 Aug;10:2045894020929147.	Original Article
114	Matsuda S, Asakura T, Morimoto K, et al.	呼吸器内科	Clinical significance of anti-glycopeptidolipid-core IgA antibodies in patients newly diagnosed with Mycobacterium avium complex lung disease.	Respir Med. 2020 Sep;171:106086	Original Article
115	Matsuda S, Kim JD, Sugiyama F, et al.	呼吸器内科	Transcriptomic Evaluation of Pulmonary Fibrosis-Related Genes: Utilization of Transgenic Mice with Modifying p38 Signal in the Lungs.	Int J Mol Sci. 2020 Sep;21(18):E6746.	Original Article
116	Hino A, Terada J, Kasai H, et al.	呼吸器内科	Adult cases of late-onset CCHS and PHOX2B-mutation carriers: an additional case report and pooled analysis.	J Clin Sleep Med. 2020 Nov;16(11):1891-1900.	Original Article
117	Tanabe N, Ogo T, Hatano M, et al.	呼吸器内科	Safety and effectiveness of riociguat for chronic thromboembolic pulmonary hypertension in real-world clinical practice: interim data from post-marketing surveillance in Japan.	Pulm Circ. 2020 Jul;10(3):2045894020938986.	Original Article
118	Imamura S, Inagaki T, Terada J, et al.	呼吸器内科	Long-term efficacy of pulmonary rehabilitation with home-based or low frequent maintenance programs in patients with chronic obstructive pulmonary disease: a meta-analysis.	Ann Palliat Med 2020 Aug;apm-19-581.	Original Article
119	Suzuki M, Ikari J, Anazawa R, et al.	呼吸器内科	PAD4 deficiency improves bleomycin-induced neutrophil extracellular traps and fibrosis in mouse lung.	Am J Respir Cell Mol Biol. 2020 Dec;63(6):806-818.	Original Article
120	Suzuki K, Kim JD, Ugai K, et al.	呼吸器内科	Transcriptomic changes involved in the dedifferentiation of myofibroblasts derived from the lung of a patient with idiopathic pulmonary fibrosis.	Mol Med Rep. 2020 Aug;22(2):1518-1526.	Original Article
121	Suzuki M, Kawata N, Abe M, et al.	呼吸器内科	Objective quantitative multidetector computed tomography assessments in patients with combined pulmonary fibrosis with emphysema: Relationship with pulmonary function and clinical events.	PLoS One. 2020 Sep;15(9):e0239066.	Original Article

計20件

122	Tanabe N, Fukuda K, Matsubara H, et al.	呼吸器内科	Selexipag for chronic thromboembolic pulmonary hypertension in Japanese patients – A double-blind, randomized, placebo-controlled, multicenter phase II study.	Circ J. 2020 Sep;84(10):1866–1874.	Original Article
123	Ishiwata T, Seki T, Gregor A, et al.	呼吸器内科	A preclinical research platform to evaluate photosensitizers for transbronchial localization and phototherapy of lung cancer using an orthotopic mouse model.	Transl Lung Cancer Res. 2021 Jan;10(1):243–251.	Original Article
124	Ikubo Y, Sanada TJ, Tanabe N, et al.	呼吸器内科	The extent of enlarged bronchial arteries is not correlated with the development of reperfusion pulmonary edema after pulmonary endarterectomy in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	Pulm Circ. 2020 Nov;10(4):2045894020968677.	Original Article
125	Tanabe N, Kumamaru H, Tamura Y, et al.	呼吸器内科	Multi-institutional prospective cohort study of patients with pulmonary hypertension associated with respiratory diseases.	Circ J. 2021 Mar;85(4):333–342.	Original Article
126	Shikano K, Ishiwata T, Saegusa F, et al.	呼吸器内科	Feasibility and accuracy of rapid on-site evaluation of touch imprint cytology during transbronchial biopsy.	J Thorac Dis. 2020 Jun;12(6):3057–3064.	Original Article
127	Naito A, Sakao S, Terada J, et al.	呼吸器内科	Nocturnal hypoxemia and high circulating TNF- α levels in chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	Intern Med. 2020 Aug;59(15):1819–1826.	Original Article
128	Takahashi Y, Yamamoto K, Tanabe N, et al.	呼吸器内科	Characteristics of Japanese elderly patients with pulmonary arterial hypertension.	Pulm Circ. 2020 Oct;10(3):2045894020954158.	Original Article
129	Hirasawa Y, Nakada TA, Shimazui T, et al.	呼吸器内科	Prognostic value of lymphocyte counts in bronchoalveolar lavage fluid in patients with acute respiratory failure: a retrospective cohort study.	J Intensive Care. 2021 Feb;9(1):21.	Original Article
130	Sanada TJ, Sun X-Q, Happé C, et al.	呼吸器内科	Altered TGF β /SMAD signaling in human and rat models of pulmonary hypertension: An old target needs attention.	Cells. 2021 Jan;10(1):84.	Original Article
131	Kasai H, Shikino K, Saito G, et al.	呼吸器内科	Alternative approaches for clinical clerkship during the COVID-19 pandemic: online simulated clinical practice for inpatients and outpatients–A mixed method.	BMC Med Educ. 2021 Mar;21(1):149.	Original Article
132	Ishiwata T, Seki T, Gregor A, et al.	呼吸器内科	A preclinical research platform to evaluate photosensitizers for transbronchial localization and phototherapy of lung cancer using an orthotopic mouse model.	Transl Lung Cancer Res. 2021 Jan;10(1):243–251.	Original Article
133	Tanabe N, Kumamaru H, Tamura Y, et al.	呼吸器内科	Multi-institutional prospective cohort study of patients with pulmonary hypertension associated with respiratory diseases.	Circ J. 2021 Mar;85(4):333–342.	Original Article
134	Takahashi Y, Yamamoto K, Sakao S, et al.	呼吸器内科	The clinical characteristics, treatment, and survival of portopulmonary hypertension in Japan.	BMC Pulm Med. 2021 Mar;21(1):89.	Original Article
135	Shikano K, Ishii D, Umimura T, et al.	呼吸器内科	Spondylodiscitis and spinal epidural abscess related to long-term placement of an airway stent for malignant central airway obstruction.	Thorac Cancer. 2020 Jun ;11:2343–2346.	Case report
136	Hashimoto Y, Kasai H, Sugiura T, et al.	呼吸器内科	Successful transcatheter arterial embolization in an asymptomatic patient with primary racemose hemangioma of the bronchial artery.	Respir Med Case Rep. 2020 Apr 21;30:101060.	Case report
137	Kobayashi T, Shigeta A, Terada J, et al.	呼吸器内科	Severe thrombocytopenia in patients with idiopathic pulmonary arterial hypertension provided several strategies for lung transplantation.	Pulm Circ. 2020 Nov 20;10(4):2045894020969103.	Case report
138	Sakao S.	呼吸器内科	Chronic lung disease-associated PH: PAH-approved drugs and established universal healthcare insurance in Japan.	Respir Investig. 2020 Jul;58(4):230–231.	Review
139	Terui K, Hirahara N, Tachimori H, et al.	小児外科	Weight gain velocity and adequate amount of nutrition for infants with congenital diaphragmatic hernia.	J Pediatr Surg. 2020 Oct;55(10):2064–2070.	Original Article
140	Terui K, Nagata K, Hayakawa M, et al.	小児外科	Novel Risk Score for Fetuses with Congenital Diaphragmatic Hernia Based on Ultrasound Findings.	Eur J Pediatr Surg. 2020;30:51–8.	Original Article
141	Terui K, Tazuke Y, Nagata K, et al.	小児外科	Weight gain velocity and adequate amount of nutrition for infants with congenital diaphragmatic hernia.	Pediatr Surg Int. 2021 Feb;37(2):205–212.	Original Article

142	Hirano S, Shimizu K, Murayama N, Ishikawa M,	脳神経内科	Relationship between person with dementia and adolescents: A preliminary survey of the Association Between Children and Dementia Elders (ABCDE) Project	Nursing and Palliative Care.2020	Original Article
143	Hirano S.	脳神経内科	Functional neuroimaging evidence supporting the	Neurol Clin Neurosci. 2020 May	Review
144	Kojima Y, Uzawa A, Shibuya K, Yasuda M, Oza	脳神経内科	Long-term prognosis of Japanese Lambert-Eaton	Clinical and Experimental Neuro	Original Article
145	Kuwabara S.	脳神経内科	Recent topics in inflammatory neuropathies	Clinical and Experimental Neuro	Review
146	Kuwabara S, Tsuneyama A, Misawa S.	脳神経内科	Chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy	J Neurol Neurosurg Psychiatry.20	Review
147	Masuda H, Mori M, Hirano S, Uzawa A, Uchida	脳神経内科	Comparison of brain atrophy in multiple sclerosis	Eur J Neurol.2020 Oct;27(10):20	Original Article
148	Masuda H, Mori M, Uzawa A, Uchida T, Ohtani	脳神経内科	Difference in fatigue and pain between neuromy	PLoS One.2020 Apr;15(4):e0224	Original Article
149	Misawa s, Suichi T.	脳神経内科	Guillain-Barré syndrome: Novel treatment by co	Clinical and Experimental Neuro	Review
150	Sakakibara R	脳神経内科	Editorial Comment to Serotonin in the rat prefron	Int J Urol.2020 Aug;27(8):689-6	Review
151	Sakakibara R	脳神経内科	Comments on 'Recurrent sigmoid volvulus in a p	Clin Auton Res.2020 Dec;30(6):3	Others
152	Sakakibara R, Panicker J N, Aiba Y, Tateno F,	脳神経内科	Possible "Premotor" Multiple System Atrophy-C	Eur Neurol.2020;83(1):80-86.	Case report
153	Sakakibara R, Sakai D, Tateno F Aiba Y	脳神経内科	Urinary retention with occult meningeal reaction	BMJ Case Rep.2020 Nov;13(11):2	Case report
154	Sakakibara R, Shimizu A, Takahashi O, Aiba Y,	脳神経内科	Lower urinary tract function in frontotemporal lo	Auton Neurosci.2020 Dec;229:1	Original Article
155	Shibuya K, Misawa S, Uzawa A, Sawai S, Tsune	脳神経内科	Split hand and motor axonal hyperexcitability in	J Neurol Neurosurg Psychiatry.20	Original Article
156	Shibuya K, Sawai S, Sugiyama A, Koide M, Nish	脳神経内科	Facial onset amyotrophic lateral sclerosis with K	Amyotroph Lateral Scler Frontot	Original Article
157	Shibuya K, Tsuneyama A, Misawa S, Sekiguchi	脳神経内科	Different distribution of demyelination in chronic	J Neuroimmunol. 2020 Apr;341:5	Original Article
158	Shibuya K, Tsuneyama A, Misawa S, Suichi T, S	脳神経内科	Cranial nerve involvement in typical and atypical	Eur J Neurol.2020 Dec;27(12):20	Original Article
159	Shimada H, Shimada Y.	脳神経内科	Progressive Parkinsonism Three Years after Shu	Intern Med.2020 Sep;59(17):218	Case report
160	Suichi T, Misawa S, Nagashima K, Sato Y, Iwai	脳神経内科	Lenalidomide Treatment for Thalidomide-refract	Intern Med. 2020 May;59(9):114	Original Article
161	Suichi T, Misawa S, Sekiguchi Y, Shibuya K, Ts	脳神経内科	Treatment response and prognosis of POEMS sy	J Neurol Sci.2020 Jun;413:11677	Original Article
162	Sugiyama A, Sato N, Kimura Y, Fujii H, Shigem	脳神経内科	The cerebellar white matter lesions in dentatoru	J Neurol Sci. 2020 Sep;416:1170	Original Article
163	Sugiyama A, Yokota H, Yamanaka Y, Mukai H,	脳神経内科	Vertical pons hyperintensity and hot cross bun s	BMC Neurol.2020 Apr;20(1):157	Original Article
164	Uzawa A, Kojima Y, Ozawa Y, Yasuda M, Onish	脳神経内科	Serum level of soluble urokinase plasminogen act	Clin Exp Immunol.2020 Dec;202	Original Article
165	Uzawa A, Mori M, Masuda H, Ohtani R, Uchida	脳神経内科	Peroxiredoxins are involved in the pathogenesis	Clin Exp Immunol.2020 Nov;202	Original Article
166	Uzawa A, Ozawa Y, Yasuda M, Kuwabara S.	脳神経内科	Severe worsening of myasthenic symptoms after	J Neuroimmunol.2020 Dec;349:5	Others
167	Uzawa A, Takeda Y, Kuwabara S.	脳神経内科	Wall-Eyed Bilateral Internuclear Ophthalmopleg	Neurologist.2020 May;25(3):82-4	Review
168	Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Kuwa	脳神経内科	Subthalamic Stimulation Inhibits Bladder Contra	Frontiers in Neuroscience.2020	Original Article
169	Yasuda M, Sugiyama A, Suichi T, Misawa S, Ku	脳神経内科	Marked neurological and immunological improvem	Clinical and Experimental Neuro	Case report
170	Kuwabara S, Suichi T, Misawa S.	脳神経内科	'Early VEGF testing in inflammatory neuropathy	J Neurol Neurosurg Psychiatry.20	Review

171	Ozawa Y, Uzawa A, Yasuda M, Kojima Y, Oda	脳神経内科	Changes in serum complements and their regulat	Eur J Neurol.2021 Jan;28(1):314	Original Article
172	Sakakibara R	脳神経内科	Editorial Comment to Impact of depression on ov	Int J Urol.2021 Feb;28(2):246-2	Review
173	Shibuya K, Sawai S, Sugiyama A, Koide M, Nish	脳神経内科	Facial onset amyotrophic lateral sclerosis with K	Amyotroph Lateral Scler Fronto	Case report
174	Uzawa A, Kuwabara S, Suzuki S, Imai T, Murai	脳神経内科	Roles of cytokines and T cells in the pathogenes	Clin Exp Immunol.2021 Mar;203	Review
175	Niibe Y	救急科・集中治療部	Population pharmacokinetic analysis of meropenem in critically ill patients with acute kidney injury treated with continuous hemodiafiltration.	Therapeutic drug monitoring 2020; 42: 588-594.	Original Article
176	Kurita T	救急科・集中治療部	Impact of increased calls to rapid response systems on unplanned ICU admissions: Japanese database study.	American Journal of Emergency Medicine 2020; 38: 1327-1331.	Original Article
177	Watanabe E	救急科・集中治療部	Pharmacokinetics, pharmacodynamics, and safety of nivolumab in patients with sepsis-induced immunosuppression: A multicenter, open-label phase 1/2 study.	Shock 2020; 53: 686-694.	Original Article
178	Higashi A	救急科・集中治療部	Shortening of low-flow duration over time was associated with improved outcomes of extracorporeal cardiopulmonary resuscitation in in-hospital cardiac arrest.	Journal of intensive care 2020; 8: 39.	Original Article
179	Takahashi N	救急科・集中治療部	Clinical course of a critically ill patient with severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 (SARS-CoV-2).	Journal of artificial organs 2020; 23: 397-400.	Case report
180	Shimazui T	救急科・集中治療部	Significance of body temperature in elderly patients with sepsis.	Critical care 2020; 24: 387.	Original Article
181	Takahashi N	救急科・集中治療部	A CO2 removal system using extracorporeal lung and renal assist device with an acid and alkaline infusion.	Journal of Artificial Organs 2020; 23: 54-61.	Original Article
182	Yamazaki S	救急科・集中治療部	Suspected cholestatic liver injury induced by favipiravir in a patient with COVID-19.	Journal of infection and chemotherapy 2021; 27: 390-392.	Case report
183	Shimazui T	救急科・集中治療部	Speech recognition shortens the recording time of prehospital medical documentation.	American Journal of Emergency Medicine 2021; S0735-6757: 00134.	Others
184	Kuroiwa R	救急科・集中治療部	Mechanical Insufflation-exsufflation for the Prevention of Ventilator-associated Pneumonia in Intensive Care Units: A Retrospective Cohort Study.	Indian journal of critical care medicine 2021; 25: 62-66.	Original Article
185	Oami T	救急科・集中治療部	Association between low body mass index and increased 28-day mortality of severe sepsis in Japanese cohorts.	Scientific reports 2021; 11: 1615.	Original Article
186	Takahashi N	救急科・集中治療部	Significance of lactate clearance in septic shock patients with high bilirubin levels.	Scientific reports 2021; 11: 6313.	Original Article
187	Kubota.Y Akita.S Mitsukawa.N	形成・美容外科	ternal Mammary Vein Valves:A Histological Stud	Sci Rep.2020 Jun 1;10(1)8857	Original Article
188	Mistukawa N	形成・美容外科	Risk factors affecting pressure ulcer healing :Impact of prescription medications	Wound Repair Regen.2020May;28(3)409-415	Original Article
189	Akita SKubota Y, Mitsukawa N.	形成・美容外科	No flow pattern on indocyanine green lymphography in breast cancer patients undergoing taxane-based chemotherapy.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2020 Mar;73(3):537-543.	Original Article
190	Akita S, Kubota Y, Mitsukawa N.	形成・美容外科	Effect of unplanned excision of soft tissue sarcomas on skin defects and reconstructive procedures.	J Plast Surg Hand Surg. 2020 Dec;54(6):372-376.	Original Article
191	Yoshitaka Kubota Mitsukawa N	形成・美容外科	Iatrogenic epidermal cyst in the rectus abdominis muscle after incisional hernia repair	Asian J Surg. 2020 May;43(5):638-639	Original Article
192	Akita S Mitsukawa N	形成・美容外科	Detection of Nonpalpable Tiny Axillary Lymph Nodes Surrounded by Adipose Tissue Using a Near-Infrared Camera.	Lymphat Res Biol. 2020 Oct;18(5):455-463	Original Article
193	Mitsukawa N	形成・美容外科	CT-guided mapping in the removal of an impalpable, radiopaque foreign body in subcutaneous tissue: a case report.	J Wound Care. 2020 Jul 2;29(7):424-426.	Original Article
194	Akita S Mitsukawa N	形成・美容外科	HAMAMATSU-ICG study: Protocol for a phase III, multicentre, single-arm study to assess the usefulness of indocyanine green fluorescent lymphography in assessing secondary lymphoedema.	Contemp Clin Trials Commun. 2020 Jun 16;19:100595	Original Article

計24件

195	Akita S Mitsukawa N	形成・美容外科	Comparison of Vectra three-dimensional stereophotogrammetry measurement and tape measurement in the evaluation of perioperative volume change of the lower abdomen in association with lymphatic microsurgery	Microsurgery. 2020 Nov 23. doi: 10.1002/micr.30688	Original Article
196	Kubota Y Akita S Mitsukawa N	形成・美容外科	Small intestinal bacterial overgrowth as a cause of protracted wound healing and vitamin D deficiency in a spinal cord injured patient with a sacral pressure sore: a case report	BMC Gastroenterol. 2020 Aug 24;20(1):283.	Original Article
197	Hidetoshi.I	感染制御部	A retrospective observational study of antimicrobial treatment for non-tuberculous mycobacteria disease using a nationwide claims database in Japan.	J Infect Chemother. 2020 ;26:349-352	Original Article
198	Hidetoshi.I	感染制御部	Epidemiology and treatment outcome of pneumonia: Analysis based on Japan national database.	J Infect Chemother. 2020 Jan;26:58-62.	Original Article
199	Shikino K, Ikusaka M	総合診療科	Milian's ear sign of erysipelas	Postgraduate Medical Journal 2020 Jun; 96: 446	Case report
200	Shikino K, Noda K, Ikusaka M	総合診療科	Instant orthopnea and pseudo cardiac dilatation due to anterior mediastinal tumor	J Gen Fam Med 2020 Apr; 21: 161-162	Case report
201	Ishizuka K, Shikino K, Ikusaka M	総合診療科	Recurrent pleuritis with pleural thickening as the manifestation of Familial Mediterranean Fever	J Gen Fam Med 2020 May; 21: 197-198	Case report
202	Ishizuka K, Uehara T, et al	総合診療科	Hoffmann-Tinel sign and entrapment neuropathy	QJM 2021 Feb; 114(1): 45-46	Case report
203	Ishizuka K, Shikino K, et al	総合診療科	Clinical key features of persistent postural perceptual dizziness in general medicine outpatient setting: A case series study of 33 patients	Intern Med 2020 Nov; 59(22): 2857-2862	Original Article
204	Yokokawa D, Shikino K, Ikusaka M	総合診療科	A Case of Giardiasis in a Japanese Organic Farmer	J Gen Fam Med 2020 Jun; 21: 270-271	Case report
205	Shikino K, Hanazawa N, et al	総合診療科	Gingival telangiectases due to dermatomyositis	J Gen Fam Med 2020 Aug; 22: 49-50	Case report
206	Hirose Y, Shikino K	総合診療科	Epiploic appendagitis	Am J Med 2021 Mar; 134(3): e195-e196	Case report
207	Ishizuka K, Yokokawa D, et al	総合診療科	Xiphodynia	Am J Med 2021 Mar; 134(3): e215-e216	Case report
208	Ishizuka K, Shikino K, Ikusaka M	総合診療科	Anterior interosseous nerve palsy caused by Parsonage-Turner syndrome	Cleve Clin J Med 2021 Mar; 88(3): 155-156	Case report
209	Yoshikawa H, Shikino K, et al	総合診療科	Diphasic fever with generalized rash including palm and sole: secondary syphilis and HIV co-infection	BMJ Case Rep 2020 Oct 29; 13(10): e238013	Case report
210	Iino Takaaki, Shikino K, et al	総合診療科	Recurrent left lower abdominal pain due to spontaneous resolving appendicitis	Am J Med 2021 Apr; 134(4): e283-e284.	Case report
211	Shikino K, Ikusaka M	総合診療科	Alexander's law in vestibular neuritis	BMJ Case Rep 2021 Jan 11; 14(1): e239705	Case report
212	Shikino K, Watari T, et al	総合診療科	Five tips on writing case reports for Japanese generalist	J Gen Fam Med 2020 Oct 26; 22(2): 111-112	Original Article
213	Tamura H, Shikino K, et al	総合診療科	De Quervain's tenosynovitis	BMJ Case Rep 2020 Dec 10; 13(12): e240129	Case report
214	Ishizuka K, Yokokawa D, Ikusaka M	総合診療科	Thoracic disc herniation diagnosed with an upper body traction procedure in the sitting position	J Gen Fam Med 2020 Dec 14; 22(3): 148-149	Case report
215	Yokokawa D, Shikino K, et al	総合診療科	Do checklist-induced behavioral changes improve self-confidence in fundoscopic examination? A mixed-methods study.	Int J Gen Med 2020 Nov 23; 13: 1219-1228	Original Article
216	Yokokawa D, Uehara T, Ikusaka M	総合診療科	Emphysematous cystitis in a patient using immunosuppressant agents.	J Gen Fam Med 2020 Nov 7; 22(2): 92-93	Case report
217	Shikino K, Ikusaka M	総合診療科	Massive Splenomegaly due to Splenic Marginal Zone B-cell Lymphoma	J Gen Fam Med 2020 Dec; 22(3): 152-153	Case report
218	Shikino K, Hayashi Y	総合診療科	Giant frontal lobe meningioma	J Gen Fam Med 2021 Jan; 22(4): 221-222	Case report

計24件

219	Hirose Y, Shikino K, et al	総合診療科	Feedback of patient survey on medication improves the management of polypharmacy: A pilot trial	BMC Fam Pract 2021 Feb; 22(1): 42	Case report
220	Ishizuka K, Tsukamoto T, Ikusaka M	総合診療科	Paroxysmal exercise-induced dyskinesia without involuntary movements	J Gen Fam Med 2021 Mar	Case report
221	Shikino K, Funakoshi H, Ikusaka M	総合診療科	Acute ascending pattern of sensory and motor symptoms due to metastatic epidural spinal cord compression	Authorea 2020 July (オンライン)	Case report
222	Ogasawara S, Ooka Y, Koroki K他	臨床研究開発推進センター	Switching to systemic therapy after locoregional treatment failure: Definition and best timing.	Clin Mol Hepatol. 2020 Apr;26(2):155-162.	Original Article
223	Matsumura T, Arai M, Suzuki T他	消化器内科	Clinical utility of salivary pepsin measurement in patients with proton pump inhibitor-refractory gastroesophageal reflux disease symptoms: a prospective comparative study.	Esophagus. 2020 Jul;17(3):339-347.	Original Article
224	Maruta S, Ogasawara S, Ooka Y他	消化器内科	Potential of Lenvatinib for an Expanded Indication from the REFLECT Trial in Patients with Advanced Hepatocellular Carcinoma.	Liver Cancer.2020 Aug;9(4):382-396.	Original Article
225	Shingyoji A, Mikata R, Ogasawara S他	消化器内科	Diverse transitions in diabetes status during the clinical course of patients with resectable pancreatic cancer.	Jpn J Clin Oncol.2020 Dec 16;50(12):1403-1411.	Original Article
226	Koroki K, Ogasawara S, Ooka Y他	消化器内科	Analyses of intermediate-stage hepatocellular carcinoma patients receiving TACE prior to designing clinical trials.	Liver Cancer. 2020 Sep;9(5):596-612.	Original Article
227	Tokunaga M, Matsumura T, Nankinzan R他	消化器内科	Computer-aided diagnosis system using only white-light endoscopy for the prediction of invasion depth in colorectal cancer.	Gastrointest Endosc. 2020 Jul 29;S0016-5107(20)34648-4.	Original Article
228	Tokunaga M, Matsumura T, Ishikawa K他	消化器内科	Efficacy of Linked Color Imaging in the Endoscopic Diagnosis of Barrett's Esophagus and Esophageal Adenocarcinoma.	Gastroenterol Res Pract. 2020 Sep 29;2020:9604345.	Original Article
229	Okimoto K, Maruoka D, Matsumura T他	消化器内科	Linked Color Imaging Improves the Visibility of superficial non-ampullary duodenal epithelial tumors.	Sci Rep. 2020 Nov 26;10(1):20667.	Original Article
230	Kanogawa N, Ogasawara S, Ooka Y他	消化器内科	Propofol versus midazolam for sedation during radiofrequency ablation in patients with hepatocellular carcinoma.	JGH Open. 2020 Dec 22;5(2):273-279.	Original Article
231	Yokoyama M, Kimura Y M, Ito T他	消化器内科	Myosin Light Chain 9/12 Regulates the Pathogenesis of Inflammatory Bowel Disease.	Front Immunol.2021 Jan 29;11:594297.	Original Article
232	Kanzaki H, Chiba T, Ao J他	消化器内科	The impact of FGF19/FGFR4 signaling inhibition in antitumor activity of multi-kinase inhibitors in hepatocellular carcinoma.	Sci Rep.2021 Mar 5;11(1):5303.	Original Article
233	Ishikawa T, Matsumura T, Okimoto K他	消化器内科	Efficacy of Texture and Color Enhancement Imaging in visualizing gastric mucosal atrophy and gastric neoplasms.	Sci Rep.2021 Mar 25;11(1):6910.	Original Article
234	Chikako Ohwada	血液内科	A Prospective, Longitudinal Observation of the Incidence, Treatment, and Survival of Late Acute and Chronic Graft-versus-Host Disease by National Institutes of Health Criteria in a Japanese Cohort.	Biol Blood Marrow Transplant. 2020. 26(1):162-170.	Original Article
235	Koji Takaishi	血液内科	Suppressive effects of anagrelide on cell cycle progression and the maturation of megakaryocyte progenitor cell lines in human induced pluripotent stem cells.	Haematologica. 2020. 105(5):e216-e220.	Original Article
236	Yurie Nagai	血液内科	Remarkable donor-derived T cell lymphocytosis before engraftment of a bone marrow transplant for acute lymphoblastic leukemia.	Leuk Lymphoma. 2020. 61(1):221-224.	Case report
237	Yutaro Hino	血液内科	Drain outlets in patient rooms as sources for invasive fusariosis: an analysis of patients with haematological disorders.	J Hosp Infect. 2020. 28:S0195-6701(20)30204-8.	Original Article
238	Asuka Shibamiya	血液内科	Successful second autologous stem-cell transplantation for patients with relapsed and refractory POEMS syndrome	Bone Marrow Transplant. 2021. 56(2):517-520.	Letter
239	Kensuke Kayamori	血液内科	DHODH inhibition synergizes with DNA-demethylating agents in the treatment of myelodysplastic syndromes	Blood Adv. 2021 26;5(2):438-450	Original Article

240	Yurie Nagai	血液内科	The combination of the tubulin binding small molecule PTC596 and proteasome inhibitors suppresses the growth of myeloma cells	Sci Rep 2021. 22;11(1):2074.	Original Article
241	Saku A, Furuta S, Kato M, et al.	アレルギー・膠原病内科	Experience of musculoskeletal ultrasound scanning improves physicians' physical examination skills in assessment of synovitis.	Clin Rheumatol. 2020;39(4):1091-1099.	Original Article
242	Makita S, Takatori H, Iwata A, et al.	アレルギー・膠原病内科	RNA-Binding Protein ZFP36L2 Downregulates Helios Expression and Suppresses the Function of Regulatory T Cells.	Front. Immunol.23 June 2020	Original Article
243	Yokote K, Niwa K, Hakoda T et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Short-term efficacy (at 12 weeks) and long-term safety (up to 52 weeks) of omega-3 free fatty acids (AZD0585) for the treatment of Japanese patients with dyslipidemia - A randomized, double-blind, placebo-controlled, phase III study.	Circ J. 2020 May 25;84(6):994-1003.	Original Article
244	Yokote K, Sano M, Tsumiyama I et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Dose-dependent reduction in body weight with LK066 (licogliflozin) treatment in Japanese patients with obesity.	Diabetes Obes Metab. 2020 Jul;22(7):1102-1110.	Original Article
245	Suzuki S, Minamidate T, Shiga A et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Steroid metabolites for diagnosing and predicting clinicopathological features in cortisol-producing adrenocortical carcinoma.	BMC Endocr Disord. 2020 Nov 23;20(1):173.	Original Article
246	Minamizuka T, Kobayashi J, Tada H et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Detailed analysis of lipolytic enzymes in a Japanese woman of familial lipoprotein lipase deficiency - Effects of pemafibrate treatment.	Clin Chim Acta. 2020 Nov;510:216-219.	Case report
247	Koshizaka M, Maezawa Y, Maeda Y et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Time gap between the onset and diagnosis in Werner syndrome: a nationwide survey and the 2020 registry in Japan.	Aging (Albany NY). 2020 Dec 29;12(24):24940-24956.	Original Article
248	Koshizaka M, Ishikawa K, Ishibashi R et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Comparison of visceral fat reduction by ipragliflozin and metformin in elderly type 2 diabetes patients: sub-analysis of a randomized-controlled study.	Diabetes Ther. 2021 Jan;12(1):183-196.	Original Article
249	Koshizaka M, Ishikawa K, Ishibashi R et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Effects of ipragliflozin versus metformin in combination with sitagliptin on bone and muscle in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: Subanalysis of a prospective, randomized, controlled study (PRIME-V study).	J Diabetes Investig. 2021 Feb;12(2):200-206.	Original Article
250	Kato H, Maezawa Y, Takayama N et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Fibroblasts from different body parts exhibit distinct phenotypes in adult progeria Werner syndrome.	Aging (Albany NY). 2021 Feb 24;13(4):4946-4961.	Original Article
251	Deguchi-Horiuchi H, Koide H, Sakuma I et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Two cases of symptomatic secondary hypophysitis due to Rathke's cleft cysts treated with glucocorticoids: long-term follow-up.	Endocr J. 2021 Mar 28;68(3):269-279.	Case report
252	Inui T, Kohno H, Matsuura K, et al.	心臓血管外科	A case of left ventricular assist device application for chemotherapy-related cardiomyopathy caused by trastuzumab and anthracycline.	J Artif Organs. 2020 Sep;23(3):270-274.	Case report
253	Matsuura K, Jin WW, Liu H, et al.	心臓血管外科	Computational fluid dynamic study of multiple sequential coronary artery bypass anastomoses in a native coronary stenosis model.	Coron Artery Dis. 2020 Aug;31(5):458-463.	Original Article
254	Sakata T, Mogi K, Sakurai M, et al.	心臓血管外科	Impact of Tricuspid Annuloplasty on Postoperative Changes in the Right Ventricular Systolic and Diastolic Function: A Retrospective Cohort Study.	J Card Surg. 2020 Jul;35(7):1464-1470.	Original Article
255	Sakata T, Mogi K, Matsuura K, et al.	心臓血管外科	Mid-term functional recovery after tricuspid annuloplasty concomitant with left-sided valve surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Apr;69(4):662-672.	Original Article
256	Hisahiro Matsubara	食道・胃腸外科	Advances in the surgical treatment of esophageal cancer since 1965	Ann Gastroenterol Surg. 2020 April ;4(3):243-249.	Review
257	Ohira G, Miyauchi H, Hayano K et al.	食道・胃腸外科	Treatment Outcome of Resection of Disseminated Peritoneal Metastases From Colorectal Cancer	In Vivo. 2020 Jul-Aug;34(4):1915-1920	Original Article
258	Isozaki T, Murakami K, Yamanouchi E et al.	食道・胃腸外科	Magnetic compression anastomosis is effective in treating stenosis after esophageal cancer surgery: a case report	Surg Case Rep. 2020 Aug 17;6(1):213	Case report

259	Hayano K, Watanabe H, Ryuzaki T et al.	食道・胃腸外科	rognostic benefit of conversion surgery for HER2 positive stage IV gastric cancer; a case series study of eleven patients treated with trastuzumab-based chemotherapy	Surg Case Rep. 2020 Sep 24;6(1):219	Case report
260	Matsumoto Y, Kano M, Murakami K et al.	食道・胃腸外科	Tumor-derived exosomes influence the cell cycle and cell migration of human esophageal cancer cell lines	Cancer Sci. 2020 Dec;111(12):4348–4358	Original Article
261	Takayashiki T	肝胆膵外科	Clinicopathological Features and Prognosis of Surgical Resected Cases of Biliary Cancer with Pancreaticobiliary Maljunction	Hepatobiliary Pancreat Dis Int. 2020;19:97–100.	Original Article
262	Takahashi M	肝胆膵外科	Comparing prognostic factors of Glut-1 expression and maximum standardized uptake value by FDG-PET in patients with resectable pancreatic cancer.	Pancreatolgy 2020;20:1205–1212.	Original Article
263	Takano S,	肝胆膵外科	Long-term outcomes and significance of preoperative lymphocyte-to-monocyte ratio as a prognostic indicator in patients with invasive pancreatic neoplasms after repeat pancreatectomy.	BMC Cancer. 2020 Feb 10;20(1):111.	Original Article
264	Sakai N,	肝胆膵外科	Outcome of interventional radiology for delayed postoperative hemorrhage in hepatobiliary and pancreatic surgery	J Gastroenterol Hepatol. 2020 Jun 11.	Original Article
265	Takagi Y,	肝胆膵外科	High expression of Krüppel-like factor 5 is associated with poor prognosis in patients with colorectal cancer	Cancer Sci. 2020;111(6):2078–2092.	Original Article
266	Hosokawa I	肝胆膵外科	Liver transection-first approach in left trisectionectomy for perihilar cholangiocarcinoma.	Ann Surg Oncol 2020;27:2381–2386	Original Article
267	Hosokawa I	肝胆膵外科	Left trisectionectomy for Bismuth-Corlette type IV perihilar cholangiocarcinoma of the left-sided predominance.	Ann Surg Oncol 2020;27:2387–2388.	Original Article
268	Konishi T,	肝胆膵外科	Fibrotic liver has prompt recovery after ischemia-reperfusion injury	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 2020;318:G390–G400.	Original Article
269	Konishi T,	肝胆膵外科	Splenic enlargement induced by preoperative chemotherapy is a useful indicator for predicting liver regeneration after resection for colorectal liver metastases.	World J Surg Oncol. 2020;18:139	Original Article
270	Miyahara	肝胆膵外科	The prognostic impact of neutrophil-to-lymphocyte ratio (NLR) and lymphocyte-to-monocyte ratio (LMR) in patients with distal bile duct cancer.	World J Surg Oncol 2020;18:78.	Original Article
271	Takano S,	肝胆膵外科	Epigastric discomfort in a 91-year-old woman	Frontline Gastroenterol. 2020; Aug 07, doi: 10.1136/flgastro-2020-101578	Case report
272	Sato N,	肝胆膵外科	Needle tract seeding recurrence of pancreatic cancer in the gastric wall with paragastric lymph node metastasis after endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration followed by pancreatectomy: a case report and literature review.	BMC Gastroenterol. 2020 Jan 15;20(1):13.	Case report
273	Tabe S,	肝胆膵外科	Residual esophageal necrosis after radical esophagectomy for esophagogastric cancer: A case report.	Mol Clin Oncol 2020;12(4):321–324.	Case report
274	Nakagawa A, Fujimoto H, Nagashima T, et al.	乳腺甲状腺外科	Histological features of skin and subcutaneous tissue in patients with breast cancer who have received neoadjuvant chemotherapy and their relationship to post-treatment edema.	Breast Cancer 27, 77–84, 2020	Original Article
275	Fujimoto H, Shiina N, Nagashima T, et al.	乳腺甲状腺外科	Oncoplastic breast-conserving surgery using chest wall perforator flaps: three dimensional quantitative analysis of the percentage of breast volume excised and changes over time in flap volume.	J Surg Oncol 121, 216–223, 2020	Original Article
276	Masuda T, Fujimoto H, Teranaka R, et al.	乳腺甲状腺外科	Anti-HER2 antibody therapy using gene-transduced adipocytes for HER2-positive breast cancer.	Breast Cancer Res Treat 180, 625–634, 2020	Original Article
277	Takao Namiki I, Shin Takayama, Ito T, et al	和漢診療科	A structured summary of a study protocol for a multi-center, randomized controlled trial (RCT) of COVID-19 prevention with Kampo medicines (Integrative Management in Japan for Epidemic Disease by prophylactic study: IMJEDI P1 study)	Trials.2021 Jan 6;22(1)	Original Article
278	Hirobumi S, Takao N, Yoshiro H, et al	和漢診療科	Anatomical factors influencing traditional abdominal examination in Kampo diagnosis: Analysis by computed tomography	Traditional & Kampo Medicine – Wiley Online Library.First published: 01 December 2020	Original Article

279	Ishige T, Murata S, Taniguchi T, et al.	検査部	Highly sensitive detection of SARS-CoV-2 RNA by multiplex rRT-PCR for molecular diagnosis of COVID-19 by clinical laboratories.	Clinica Chimica Acta. 2020 Aug;507:139-142.	Original Article
280	Kakinuma S, Beppu M, Sawai S, et al.	検査部	Monoamine oxidase B rs1799836 G allele polymorphism is a risk factor for early development of levodopa-induced dyskinesia in Parkinson's disease.	eNeurologicalSci. 2020 Apr 6;19:100239.	Original Article
281	Nomura F, Tsuchida S, Murata S, et al.	検査部	Mass spectrometry-based microbiological testing for blood stream infection.	Clin Proteomics. 2020 May 13;17:14.	Original Article
282	Kobayashi S, Hiwasa T, Ishige T, et al.	検査部	Anti-FIR Δ exon2 autoantibody as a novel indicator for better overall survival in gastric cancer.	Cancer Sci. 2021 Feb;112(2):847-858.	Original Article
283	Hajime Kasai, Kiyoshi Shikino, Go Saito他	総合医療教育研修センター	Alternative approaches for clinical clerkship during the COVID-19 pandemic: online simulated clinical practice for inpatients and outpatients-A mixed method.	BMC medical education 21(1) 149 - 149 2021年3月8日	Original Article
284	Kenichi Arai, Ko-Hei Yamamoto, Takaaki Suzuki, et al.	薬剤部	Risk factors affecting pressure ulcer healing: Impact of prescription medications.	Wound repair and regeneration. 2020 28(3) 409-415	Original Article
285	Shingo Yamazaki, Mizuki Tatebe, Masachika Fujiyoshi, et al.	薬剤部	Population Pharmacokinetics of Vancomycin Under Continuous Renal Replacement Therapy Using a Polymethylmethacrylate Hemofilter.	Therapeutic drug monitoring. 2020 42(3) 452-459	Original Article
286	Masashi Uchida, Shingo Yamazaki, Takaaki Suzuki, et al.	薬剤部	Effects of red blood cell concentrate transfusion on blood tacrolimus concentration.	International journal of clinical pharmacy. 2020 42(3) 956-964	Original Article
287	Yoko Niibe, Tatsuya Suzuki, Shingo Yamazaki, et al.	薬剤部	Population Pharmacokinetic Analysis of Meropenem in Critically Ill Patients With Acute Kidney Injury Treated With Continuous Hemodiafiltration.	Therapeutic drug monitoring 2020. 42(4) 588-594	Original Article
288	Takafumi Nakazawa, Shingo Yamazaki, Masashi Uchida, et al.	薬剤部	Association of marked prolongation of prothrombin time-international normalized ratio with warfarin and endoscopic nasobiliary drainage for biliary fistula after left hemihepatectomy.	Journal of clinical pharmacy and therapeutics. 2020 45(4) 815-818	Case report
289	Hirokazu Takatsuka, Shingo Yamazaki, Akira Watanabe, et al.	薬剤部	Successful treatment of Aspergillus empyema using combined intrathoracic and intravenous administration of voriconazole: A case report.	Journal of infection and chemotherapy. 2020 26(8) 847-850	Case report
290	Ichiro Yokoyama, Hiroki Yamaguchi, Kaori Yamazaki, et al.	薬剤部	Usability assessment of drug-linking laboratory data listed on prescriptions for outpatients of chiba university hospital.	Scientific reports. 2021 11(1) 1715-1715	Original Article
291	Yuhei Hamada, Masashi Uchida, Sayaka Arai, et al.	薬剤部	Analysis of patients' request to switch from a generic drug to the original drug in external prescriptions.	Journal of pharmaceutical health care and sciences. 2020 6(1) 2-27	Original Article
292	Shingo Yamazaki, Takaaki Suzuki, Misa Sayama, et al.	薬剤部	Suspected cholestatic liver injury induced by favipiravir in a patient with COVID-19.	Journal of infection and chemotherapy. 2021 27(2) 390-392	Case report
293	Shibamiya A, Ohwada C, Ishii A, et al.	輸血・細胞療法部	Successful second autologous stem-cell transplantation for patients with relapsed and refractory POEMS syndrome	Bone Marrow Transplant . 2021 Feb;56(2):517-520.	Letter
294	Nagai Y, Mimura N, Rizq O, et al.	輸血・細胞療法部	The combination of the tubulin binding small molecule PTC596 and proteasome inhibitors suppresses the growth of myeloma cells.	Sci Rep. 2021 Jan 22;11(1):2074.	Case report
295	Kayamori K, Nagai Y, Zhong C, et al.	輸血・細胞療法部	DHODH inhibition synergizes with DNA-demethylating agents in the treatment of myelodysplastic syndromes	Blood Adv . 2021 Jan 26;5(2):438-450.	Review
296	Yoshino K, Nakamura J, Hagiwara S, et al.	整形外科	Anatomical Implications Regarding Femoral Nerve Palsy During a Direct Anterior Approach to Total Hip Arthroplasty: A Cadaveric Study.	J Bone Joint Surg Am. 2020;15;102(2):137-142.	Original Article
297	Kinoshita H, Orita S, Inage K, et al.	整形外科	Freeze-Dried Platelet-Rich Plasma Induces Osteoblast Proliferation via Platelet-Derived Growth Factor Receptor-Mediated Signal Transduction.	Asian Spine J. 2020;14(1):1-8.	Original Article
298	Suzuki T, Matsuura Y, Yamazaki T, et al.	整形外科	Biomechanics of callus in the bone healing process, determined by specimen-specific finite element analysis	Bone. 2020;132:115212.	Original Article
299	Eguchi Y, Enomoto K, Sato T, Watanabe A, et al.	整形外科	Simultaneous MR neurography and apparent T2 mapping of cervical nerve roots before microendoscopic surgery to treat patient with radiculopathy due to cervical disc herniation: Preliminary results.	J Clin Neurosci. 2020;74:213-219.	Original Article
300	Kitamura M, Maki S, Koda M, et al.	整形外科	Longitudinal diffusion tensor imaging of patients with degenerative cervical myelopathy following decompression surgery	J Clin Neurosci. 2020;74:194-198.	Original Article

301	Maki S, Furuya T, Horikoshi T, et al.	整形外科	A Deep Convolutional Neural Network With Performance Comparable to Radiologists for Differentiating Between Spinal Schwannoma and Meningioma.	Spine. 2020;15;45(10):694-700.	Original Article
302	Kanamoto H, Norimoto M, Eguchi Y, et al.	整形外科	Evaluating Spinal Canal Lesions Using Apparent Diffusion Coefficient Maps with Diffusion-Weighted Imaging.	Asian Spine J. 2020;14(3):312-319.	Original Article
303	Enomoto T, Akagi R, Ogawa Y, et al.	整形外科	Timing of Intra-Articular Injection of Synovial Mesenchymal Stem Cells Affects Cartilage Restoration in a Partial Thickness Cartilage Defect Model in Rats.	Cartilage. 2020;11(1):122-129.	Original Article
304	Eguchi Y, Orita S, Yamada H, et al.	整形外科	Pilot study of oblique lumbar interbody fusion using mobile percutaneous pedicle screw and validation by a three-dimensional finite element assessment.	J Clin Neurosci. 2020;76:74-80.	Original Article
305	Norimoto M, Eguchi Y, Watanabe A, et al.	整形外科	Does the increased motion probing gradient directional diffusion tensor imaging of lumbar nerves using multi-band SENSE improve the visualization and accuracy of FA values?	Eur Spine J. 2020;29(7):1693-1701.	Original Article
306	Sato T, Eguchi Y, Norimoto M, et al.	整形外科	Diagnosis of lumbar radiculopathy using simultaneous MR neurography and apparent T2 mapping.	J Clin Neurosci. 2020;78:339-346.	Original Article
307	Yamada Y, Maki S, Kishida S, et al.	整形外科	Automated classification of hip fractures using deep convolutional neural networks with orthopedic surgeon-level accuracy: ensemble decision-making with antero-posterior and lateral radiographs.	Acta Orthop. 2020;91(6):699-704.	Original Article
308	Akagi R, Muramatsu Y, Mukoyama S, et al.	整形外科	Arthroscopic Reduction and Internal Fixation of Posterior Cruciate Ligament Avulsion Fracture Using an Adjustable-Length Loop Device.	Arthrosc Tech. 2020;21;9(12):e2001-e2006.	Original Article
309	Orita S, Shiga Y, Inage K, et al.	整形外科	Technical and Conceptual Review on the L5-S1 Oblique Lateral Interbody Fusion Surgery (OLIF51).	Spine Surg Relat Res. 2020;5(1):1-9	Review
310	Sasaki Y, Ochiai N, Kenmoku T, et al.	整形外科	Arthroscopic tenodesis using a bioabsorbable interference screw and soft anchor: A case series of 60 patients.	J Orthop Sci 2020;25:410-415	Case report

計10件
合計310件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準拠すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	①・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	②・無

手順書の主な内容

臨床研究の審査は臨床研究倫理審査委員会が附属病院に設置されており、それぞれ規程と手順書が整備されている。手順書には、医薬品等の臨床試験に関わる業務手順が示されている。ネットワークとしての中央倫理審査委員会機能を果たすることができる手順となっている。また、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に対応した倫理学・法律学の専門家、一般の立場から意見を述べることのできる委員が適切に指名された構成となっている。また、令和2年4月より医学部とは別に附属病院に生命倫理審査委員会を新設し、定期的に委員会を開催した。

なお、臨床研究法下で実施される特定臨床研究を審査する認定臨床研究審査委員会が千葉大学により、附属病院に設置されている。

1. 千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会規程

千葉大学医学部附属病院（以下「病院」という。）で行われるヒトを対象とした研究（以下「研究」という。）について、次の各号に掲げる宣言及び指針の趣旨に沿って人間の尊厳及び人権を尊重し、社会の理解と協力を得て適正な研究を実施するため、その審査に当たることを目的として千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会（以下「委員会」という。）を置く。

一 ヘルシンキ宣言（1964年世界医師会採択、2000年世界医師会修正）

二 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）

2. 千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会運営手順書

千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会規程の定めるところにより、千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会（以下「委員会」という。）の運営方法を定め、医薬品の臨床試験等に関わる業務手順を示す。本委員会は、本院においてヒトに対して安全性が確認されている医薬品および医療機器の臨床試験又は臨床使用（以下、臨床試験及び臨床使用を一括して「臨床試験等」という。）を行うことの適否および継続して行うことの適否等について、ヘルシンキ宣言と人を対象とする医学系研究に関する倫理指針等に基づいて審査する。

3. 千葉大学医学部附属病院自主臨床試験取扱手順書

国立大学法人千葉大学医学部附属病院（以下「本院」という。）における研究者が主導して行う医薬品及び医療機器の臨床試験（自主臨床試験；以下「臨床試験」という。）及び未承認薬等の臨床使用（以下、臨床試験と併せて「臨床試験等」という。）の実施に際しての遵守事項並びに適正な実施に必要な手続きと運用に関する事項を定める。

本手順書は、臨床試験を実施するにあたり、ヘルシンキ宣言及び「臨床研究に関する倫理指針（平成16年12月28日改正）」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年12月22日）」、並びに「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令（平成9年厚生省令第28号）」及び「医療機器の臨床試験の実施の基準に関する省令（平成17年厚生労働省令第36号）」（以下「GCP」という。）等に基づき、被験者の人権、安全及び福祉の保護のもとに、臨床試験の科学的妥当性と成績の信頼性を確保するために最低限遵守すべき事項を示したものであり、本院の臨床研究倫理審査委員会で審査を行う臨床試験等に対して適用する。

4. 千葉大学医学部附属病院生命倫理審査委員会規程

千葉大学医学部附属病院に、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針（平成13年文部科学省、厚生労働省、経済産業省告示第1号）第4及び人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）第4章に定める審査等を行い、研究を行う機関の長に対して文書により意見を述べることを目的として、生命倫理審査委員会（以下「委員会」という。）を置く。なお、ヒトゲノム・遺伝子解析研究及び人を対象とする医学系研究を行うにあたり、研究に用いられる情報の取扱いにおいては、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号。以下「個人情報保護法」という。）、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第58号）、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第59号）及び個人情報保護法第11条第1項の趣旨を踏まえて地方公共団体において制定される条例を遵守する必要があることに留意する。

5. 千葉大学医学部附属病院生命倫理審査委員会運営手順書

千葉大学医学部附属病院生命倫理審査委員会規程の定めるところにより、千葉大学医学部附属病院生命倫理審査委員会の運営手順を定め、ヒトゲノム・遺伝子解析研究及び人を対象とする医学系研究に関わる倫理審査に関する運営手順を示すものである

6. ヒトゲノム・遺伝子解析研究取扱手順書

千葉大学医学部附属病院（以下「本院」という。）における遺伝情報が得られる等のヒトゲノム・遺伝子解析の特色を踏まえ、全てのヒトゲノム・遺伝子解析研究に適用され、研究現場において遵守されるべき事項並びに適正な実施に必要な手続きと運用に関する事項を定める。ヒトゲノム・遺伝子解析研究を実施するにあたり、ヘルシンキ宣言及び「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針（平成29年2月28日改正）」等に基づき、人間の尊厳及び人権が尊重され、社会の理解と協力を得て、研究の適正な推進が図られることを目的とし、基本方針を示したものであり、本院生命倫理審査委員会で審議を行うヒトゲノム・遺伝子解析研究等に対して適応する。

③ 倫理審査委員会の開催状況

年 各11回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

認定臨床研究審査委員会における特定臨床研究の審査体制

認定臨床研究審査委員会の設置状況	③・無
認定年月日：平成30年3月30日	
定期的な開催について： 毎月第3月曜日 実績 12回 開催 (令和2年4月20日、5月18日、6月15日、7月20日、8月17日、9月28日、10月19日、11月16日、12月21日、令和3年1月18日、2月15日、3月15日)	
委員、技術専門員及び運営に関する事務を行う者に対する教育又は研修の機会及び受講歴の管理について： 1 病院長は委員会の委員、技術専門員及び運営に関する事務に従事する者が研究倫理、法の理解、研究方法、審査及び関連する業務に関する教育・研修を継続して受けることを確保するための必要な措置を講じる。なお、研修は倫理審査委員会委員研修会又は臨床研究に関する特別	

セミナーとし、1年間に3時間以上の受講を必須とし、受講歴を管理している。
 2 外部の技術専門員を委嘱する場合には、当該施設で定められた研修を受講済みであることを確認する。

前年度の審査件数：

	臨床研究法に規定する特定臨床研究		臨床研究法に規定する特定臨床研究以外の臨床研究	
	研究責任医師（多施設共同研究の場合は研究代表医師）が自施設に所属する研究	研究責任医師（多施設共同研究の場合は研究代表医師）が他の医療機関に所属する研究	研究責任医師（多施設共同研究の場合は研究代表医師）が自施設に所属する研究	研究責任医師（多施設共同研究の場合は研究代表医師）が他の医療機関に所属する研究
新規	10件	0件	0件	0件
変更	85件	0件	1件	0件
定期	29件	0件	1件	0件
疾病等報告	47件	0件	0件	0件
中止	1件	0件	0件	0件
終了	4件	0件	0件	0件
その他	8件	0件	0件	0件

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	①・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	②・無

利益相反に関する審査の質の向上に向けた取組：

1. 利益相反委員会は、千葉大学医学部附属病院各種委員会規程により設置され、千葉大学医学部附属病院における利益相反ポリシーおよびマネジメント規程が定められている。利益相反管理手順は、はじめに臨床研究実施者が、研究ごとに「臨床研究の利益相反に関する自己申告書」を臨床研究実施計画書と共に病院長に提出する（マネジメント規程第4条(1)）。次に、利益相反委員会は、申告書により利益相反の存在が明らかな場合（自己申告書詳細に記入されている場合）、臨床研究実施計画書に照らし合わせて適正な臨床研究が実施可能かどうかを審議し、必要と認めた場合は対象者に助言・指導・勧告等を行う（マネジメント規程第5条(1)）。病院長は、「千葉大学医学部附属病院臨床研究に関する利益相反委員会 フローチャート」に従い、利益相反委員会の審査後、臨床研究倫理審査委員会へ審査を依頼する。

2. VART事案をうけ、以下に示す利益相反に関する取組を実施している。

(1) 当院の利益相反マネジメントについては利益相反に関する自己申告書の書式を再検討し、

研究資金について記載内容の全面的な整備を行った。

(2) 特定の臨床研究を目的とした企業からの奨学寄附金の受け入れ禁止を本院執行部会で決定した。臨床研究を実施する場合には、企業との契約研究として本院病院長との契約のもとに実施することが平成25年10月に決定されている。また、平成30年4月からは研究法施行が施行され、法律遵守のもとに契約が締結され研究資金等の提供を受け臨床研究が行われている。個別の案件についての契約は、附属病院の研究推進課が行い、資金の管理は附属病院管理課経理係および用度係で行っている。

(3) 平成28年5月より毎年、臨床研究に携わるすべての職員及び委員会委員を対象とした特別セミナーを開催し受講を必須としている。講師として谷内一彦先生、曾根三郎先生等の専門家を招聘した。また、各セミナーごとに、参加者を対象に理解度確認テストを実施し、セミナー受講者の理解度を確認している。

(4) データの管理の第三者性の確保のため侵襲および介入を伴う臨床試験のデータ管理は、研究者とは独立し臨床試験部データマネジメント室、データセンターにおいて行うものとし、利益相反のマネジメント体制を確保した。

規程・手順書の主な内容：

1. 国立大学法人千葉大学利益相反委員会規程

国立大学法人千葉大学に、本学利益相反マネジメントポリシーに基づき、本学の役員及び職員に係る利益相反に適切に対処するとともに利益相反に関する重要事項を審議するため、利益相反委員会を置き、次に掲げる事項を審議する。

- 一 利益相反マネジメントポリシーに関すること。
- 二 利益相反ガイドラインに関すること。
- 三 利益相反防止に関する施策及び啓蒙活動に関すること。
- 四 利益相反に関する調査及び審査に関すること。
- 五 その他利益相反に関する重要事項

本規程第9条に、「臨床研究に係る利益相反委員会については、別に定める」ことが規定されている。

2. 千葉大学医学部附属病院各種委員会規程及び別表 常置委員会

千葉大学医学部附属病院各種委員会規程第3条に基づく常置委員会として、別表 常置委員会のとおり、①臨床研究に係る利益相反ポリシーに関する事項、②臨床研究に係る利益相反マネジメントに関する事項、③臨床研究に係る利益相反防止に関する施策及び啓蒙活動に関する事項、④臨床研究に係る利益相反に関する調査及び審査に関する事項、⑤その他臨床研究に係る利益相反に関する重要事項を所轄する。

3. 千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー

本ポリシーは平成17年9月に制定され、臨床研究を行う研究者と関係者、被験者、大学などを取り巻く利益相反の存在を明らかにすることによって、被験者の保護を最優先としつつ、大学や研究者などの正当な権利を認め社会の理解と信頼を得て、大学の社会的信頼を守り、臨床研究の適正な推進を図る。

4. 千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反マネジメント規程

千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反の取扱い・マネジメントは、国立大学法人千葉大学利益相反委員会規程第9条に基づき、千葉大学医学部附属病院臨床研究に関する利益相反委員会を設置し、千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー、臨床研究の利益相反ポリシー策定に関するガイドライン（平成18年3月文部科学省）、厚生労働科学研究における利益相反（Conflict of Interest：COI）の管理に関する指針（平成20年3月31

日科発第0331001号厚生科学課長決定）並びに法令又はこれに基づく特別の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

本規程第4条（管理の手続き）及び第5条（管理の実施）に従い、臨床研究実施者（必要に応じて臨床研究関係者）は臨床研究の利益相反に関する自己申告書を臨床研究実施計画書と共に病院長に提出し、利益相反委員会において審査並びにマネジメントを行う。利益相反委員会の審査結果を臨床研究倫理審査委員会に報告し、臨床研究倫理審査委員会の審査結果も踏まえて、利益相反管理も含めて審査を行っている。

5. 臨床研究の利益相反に関する自己申告書

臨床研究実施者及び倫理審査委員会の委員等は、臨床研究に関する利益開示を受ける委員会として規定されている利益相反委員会に利益相反に関する自己申告書を提出し、適切なマネジメント受け、必要な場合には試験実施計画書を変更等の対応を実施している。

臨床研究法下で実施する試験は、提出された申告内容について事実確認を行い、必要に応じて利益相反委員会のマネジメントを受けている。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況

年 11回

（注）前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況

年 6回

研修の主な内容

・ 臨床研究入門講義 3回 「臨床試験の法的枠組み」「研究倫理～臨床研究の8つの倫理的要件」「臨床試験の説明と同意（基本のルール）、臨床試験・同意説明文書の作成」

・ 倫理審査委員会研修会 3回 「先進医療の審査・実施の視点について」「改正医薬品医療機器法施行について（新しい承認制度）」「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について」

（注）前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

(目的と特徴)
● 初期研修を修了した医師・歯科医師が臨床医学系専門領域の専門医を取得する
● 2年間の卒後研修を含む新しい枠組みでの専門医を取得できるプログラム
● 内科、外科の場合は内科認定医・認定内科専門医、外科専門医を取得できると共に、さらにサブスペシャリティーの専門医を取得できるプログラム
(研修期間)
● 研修期間は3～5年（卒後研修：2年を含まない）原則として各専門領域の専門医取得に定められた期間
(到達目標)
● 専門医としての患者ケアのための臨床能力を身につける
● 専門医としての患者ケアのための知識の習得と応用が出来る
● 診療経験を振り返り臨床能力を向上させることが出来る
● 必要かつ十分なコミュニケーション能力を示すことが出来る
● 医師としてのプロフェッショナリズムを身につける
● 家族・地域・制度などの医療資源を理解し活用することが出来る
● 指導医としての教育的役割を果たすことが出来る
● 臨床研究の意義を理解し倫理原則にしたがって研究を行うことが出来る

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	115人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
加藤 直也	消化器内科	科長（教授）	34年	
堺田 恵美子	血液内科	科長（診療教授）	26年	
浅沼 克彦	腎臓内科	科長（教授）	25年	
中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	科長（教授）	32年	
小野 啓	糖尿病・代謝・内分泌内科	科長（診療教授）	25年	
小林 欣夫	循環器内科	科長（教授）	32年	
小林 欣夫	冠動脈疾患治療部	部長（教授）	32年	
鈴木 拓児	呼吸器内科	科長（教授）	26年	
桑原 聡	脳神経内科	科長（教授）	36年	
生坂 政臣	総合診療科	科長（教授）	35年	
並木 隆雄	和漢診療科	科長（診療教授）	35年	
猪狩 英俊	感染症内科	科長（診療教授）	32年	
滝口 裕一	腫瘍内科	科長（教授）	37年	
松宮 護郎	心臓血管外科	科長（教授）	34年	
松原 久裕	食道・胃腸外科	科長（教授）	36年	

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大塚 将之	肝胆膵外科	科長（教授）	32年	
長嶋 健	乳腺・甲状腺外科	科長（診療教授）	32年	
吉野 一郎	呼吸器外科	科長（教授）	33年	
菱木 知郎	小児外科	科長（教授）	27年	
滝口 裕一	臨床腫瘍部	部長（教授）	37年	
磯野 史朗	麻酔・疼痛・緩和医療科	科長（教授）	36年	
市川 智彦	泌尿器科	科長（教授）	33年	
大鳥 精司	整形外科	科長（教授）	26年	
馬場 隆之	眼科	科長（診療教授）	23年	
松江 弘之	皮膚科	科長（教授）	33年	
花澤 豊行	耳鼻咽喉・頭頸部外科	科長（教授）	31年	
三川 信之	形成・美容外科	科長（教授）	29年	
伊豫 雅臣	精神神経科	科長（教授）	36年	
岩立 康男	脳神経外科	科長（教授）	37年	
生水 真紀夫	婦人科・周産期母性科	科長（教授）	39年	
濱田 洋通	小児科	科長（教授）	30年	
宇野 隆	放射線科	科長（教授）	32年	
中田 孝明	救急科	科長（教授）	21年	
安部 隆三	集中治療部	部長（准教授）	21年	
浅沼 克彦	人工腎臓部	部長（教授）	25年	
村田 淳	リハビリテーション科	科長（診療教授）	34年	
伊豫 雅臣	こどものこころ診療部	部長（教授）	36年	
松下 一之	検査部	部長（診療教授）	32年	
池田 純一郎	病理診断科・病理部	科(部)長（教授）	18年	
加藤 順	内視鏡センター	センター長（准教授）	27年	
鶴澤 一弘	歯科・顎・口腔外科	科長（教授）	31年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

医師1～2名（例：指導医、研修医）、看護師2～3名（例：熟練、中堅、新人看護師）、他職種でチームを形成し、1～2チームがあらかじめ作成したシナリオ（1～2種類）にもとづいてシミュレーション実習を行う。シミュレーターはSimMan 3G、SimBaby、HPSを用いる。シナリオ内容は作成者およびセミナー管理者にのみ知らされ、実習参加者はシナリオの内容を知らずに急変対応を行っていく。実習の様子はビデオモニターで撮影・記録され、上記チーム以外の参加者はその映像をリアルタイムで観察する。実習終了後、記録ビデオを参考にしながら、全参加者でデブリーフィング（振り返り）を行う。

・研修の期間・実施回数

3回／年（新型コロナウイルス感染症のためすべての回を中止）

・研修の参加人数

0名（研修を中止したことによるもの）

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

「新任看護師長研修」 病院及び看護部運営の実際と看護管理

病院・看護部組織と運営、人事・労務管理、人材確保、人材育成、看護業務の進め方、看護の質保証、看護と経営、医療安全、部署の看護管理に活かすため、他部署・他部門、他施設の見学研修

・研修の期間・実施回数

「新任看護師長研修」 令和2年4月15日、27日、28日

5月11日、22日、26日、27日

6月11日 計8回

・研修の参加人数

「新任看護師長研修」 3名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
管理責任者氏名	病院長 横手 幸太郎	
管理担当者氏名	企画情報部長 鈴木 隆弘 医療安全管理部長 相馬 孝博 臨床工学センター長 磯野 史朗 管理課長 渡辺 勉 医療サービス課長 鹿倉 敏則	
	薬剤部長 石井 伊都子 感染制御部長 猪狩 英俊 総務課長 荘野 典文 医事課長 富永 吉司	

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	企画情報部 医療サービス課
		看護記録	企画情報部 医療サービス課
		検査所見記録	企画情報部 医療サービス課
		エックス線写真	企画情報部
		紹介状	企画情報部 医療サービス課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	企画情報部 医療サービス課
		従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課 医療サービス課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療サービス課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	医療サービス課
	規則第十一	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課医療安全室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課医療安全室

			保 管 場 所	管 理 方 法
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課医療安全室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部 医事課医療安全室	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課医療安全室	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所（キャビネット等）で保管・管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課医療安全室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課医療安全室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部 医事課医療安全室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課 医事課医療安全室	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医事課医療安全室	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課 管理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	管理課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理課	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課	

		保 管 場 所	管 理 方 法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課 医事課医療安全室	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所（キャビネット等）で保管・管理している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課 医事課医療安全室	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課 医事課医療安全室	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課 医療サービス課	
		医療安全管理部門の設置状況	医事課医療安全室	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全室	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全室	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部 医事課医療安全室	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課医療安全室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課医療安全室	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課 監査室（大学）	
		職員研修の実施状況	総務課 医事課医療安全室	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課、管理課 医事課医療安全室 薬剤部	
管理者が有する権限に関する状況	総務課			
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 横手 幸太郎		
閲覧担当者氏名	総務課長	荘野 典文	管理課長 渡辺 勉
	経営企画課長	細川 敬貴	研究推進課長 大塚 隆司
	医事課長	富永 吉司	医療サービス課長 鹿倉 敏則
閲覧の求めに応じる場所	患者相談室		
閲覧の手続の概要			
病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧したい旨の申し出があった場合、閲覧希望のあった諸記録を所掌する閲覧担当者が閲覧責任者に確認の上、患者相談室において求めに応じる。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 基本的な考え方 2. 病院長の責務 3. 医療安全に関する組織と取組 4. 医療安全管理のための職員研修 5. 医療上の事故等の報告 6. 医療上の事故等発生時の対応 7. 患者等への当該基本方針の閲覧 8. 患者からの相談への対応 9. その他の医療安全推進への対応 10. その他	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年 13 回 ・ 活動の主な内容： 1. 病院において重大な問題やその他委員会において取扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。 2. 上記の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに病院職員への周知に関すること。 3. 上記の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。 4. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 5. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 6. 4. 及び5. の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること。 7. その他医療安全管理に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の内容（すべて）： 1. 第1回安全セミナー 令和2年 7/15～8/14（e-ラーニング）、 7/28、7/29、7/31（動画上映）、個別受講 「あらためて記録するのは何のため!?」「求められる情報モラルとリテラシー」「感染症のPCR検査について」「抗菌薬適正使用推進プログラム」「画像診断に係る安全管理」 2. 第2回安全セミナー 令和2年 11/17～12/17（e-ラーニング）、 12/2、12/11、12/14（動画上映）、個別受講 「情報の保護・管理に関する最新情報」「守らないと違法になるかも?!」「院内急変に正しく対応するために」「ペースメーカー植え込み患者の安全管理」「新型コロナウイルスの感染対策と治療について（ICT・AST）」「処置・	

手術に関して」

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ ☒ ・ 無 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 医療上の問題

◆「千葉大学医学部附属病院インシデント及び医療上の事故発生時の対応に関する取扱要項」に則り、インシデントが発生した場合はインシデント報告システムにより速やかに報告され、ゼネラルリスクマネージャー及び部署リスクマネージャーが内容を把握する。インシデントの詳細な情報は、部署リスクマネージャーが確認し、収集する。ゼネラルリスクマネージャーは報告内容に応じて当該部署に出向き、当事者及び関係者から情報を収集する。

2. 分析

◆各部署では当該部署のリスクマネージャーが中心となり、RCA などの分析手法を活用し、分析する。医療安全管理部ではゼネラルリスクマネージャーが部署への分析手法の指導・支援を行う。

3. 改善策の検討

◆マニュアル改正などはリスクマネジメント会議において多職種による検討を行い、医療の質・安全管理委員会で承認する。また、医療事故発生の原因調査及び原因究明は事例検討委員会において検討する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 基本的な考え方 2. 委員会，その他組織に関すること 3. 院内感染対策のための研修等 4. 感染症の発生状況及び抗菌薬使用状況の報告 5. 院内感染発生時の対応 6. 患者等への当該基本方針の閲覧 7. その他の院内感染対策推進への対応 8. その他	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年13回
・ 活動の主な内容： 1. 院内感染の実態把握のための調査及び点検に関すること。 2. 院内感染予防対策の立案に関すること。 3. 院内感染発生時の対策に関すること。 4. 職員に対する院内感染予防対策の教育に関すること。 5. 院内感染予防対策マニュアルの作成及び改訂に関すること。 6. その他院内感染予防対策に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
・ 研修の内容（すべて）： 1. 第1回安全セミナー 令和2年 7/15～8/14（eラーニング）、7/28、7/29、7/31（動画上映）、個別受講 「あらためて記録するのは何のため!?」「求められる情報モラルとリテラシー」 「感染症のPCR検査について」「抗菌薬適正使用推進プログラム」「画像診断に係る安全管理」 2. 第2回安全セミナー 令和2年 11/17～12/17（eラーニング）、12/2、12/11、12/14（動画上映）、個別受講 「情報の保護・管理に関する最新情報」「守らないと違法になるかも?!」 「院内急変に正しく対応するために」「ペースメーカー植え込み患者の安全管理」 「新型コロナウイルスの感染対策と治療について（ICT・AST）」「処置・手術に関して」	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. ICT活動 □ICTラウンド（週1回）と報告 □Weeklyラウンド □月間ラウンド（MRSA・MDRP・CREを対象（月1回）と報告 □分離菌報告 2. AST活動 □血液培養陽性患者のモニター □診療コンサルテーション報告 □抗菌薬の許可制	

- ☐ 特定薬剤使用状況報告
- ☐ ASTラウンド

3. 感染制御部・事務職員・清掃業者による環境清掃ラウンド（月2回）と報告

4. 職員感染対策

- ☐ 針刺し・切創、血液・体液曝露外来の実施
- ☐ 職員の抗体検査と予防接種の実施
- ☐ 病院職員・外部委託業者に対するワクチン接種

5. 医療関連感染サーベイランスの実施とフィードバック

- ☐ カテーテル関連血流感染（血液内科）
- ☐ 手術部位感染（肝胆膵外科、食道・胃腸外科）
- ☐ 手指衛生サーベイランス（払い出し量からみた手指衛生指数・直接観察法）

6. 感染防止対策の地域連携に関する活動

- ☐ 感染防止対策地域連携加算に係る相互チェックの実施（連携医療機関と相互に年1回ずつ）
- ☐ 感染防止対策加算に係るカンファレンスの開催（連携医療機関と年4回）
- ☐ 院内感染地域支援ネットワーク事業と連携した地域の感染対策向上を目的とした活動（研修会・アウトブレイク支援・感染対策相談等）

7. アウトブレイク発生時の対応と終息に向けた対策

- ・新型コロナウイルス感染症クラスター発生と活動
- ・NICU・GCUにおけるMRSAのアウトブレイクと活動

8. 手指消毒剤個人携帯の推奨や手指衛生サーベイランスの結果報告や手指衛生指導等、手指衛生啓発活動

9. 国公立大学附属病院感染対策協議会における活動（感染対策チェック）

- ・国公立大学感染対策協議会の指示により自己チェックのみ実施し、自施設の改善活動の実施
- ・国公立大学感染対策協議会（総会）WEB参加

10. 新型コロナウイルス感染症対策

- ・対策本部を設置し院内感染対策を強化した
- ・行政との会議委員として会議等に参加した

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☒ ・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： 1. 新規採用ガイダンス（研修医を含む新規採用者対象） 令和2年4月1日 ・「薬剤部業務と医療安全」 2. 新規採用ガイダンス（研修医を含む新規採用者対象） 令和2年4月7日 ・「抗がん薬の取扱いについて」 3. 第2回医療安全セミナー 令和2年11月17日～12月17日（eラーニング）、12月2日、11日、14日（動画上映）、個別受講 ・「守らないと違法になるかも?!」	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成（☒・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 1. 医薬品の採用を審議する薬事委員会の開催及び適正運用の実施 2. 医薬品の購入及び麻薬、向精神薬、毒薬、劇薬、厳重管理薬、特定生物由来製品等の適正管理の実施 3. 患者に対する安全な医薬品供給のための処方、調剤、交付、指示出し・指示受け、過誤防止対策、薬剤管理指導等の実施 4. 医薬品の情報の収集及び提供の実施 5. 医薬品の使用に関する教育・研修の実施 6. 各部門における手順書に基づいた業務実施状況の確認 等	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備（☒・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ○院内製剤の調製及び使用について（滅菌ピオクタニン液1%） ○心臓移植のドナー心臓の心筋保護液（心臓保存液celsior） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 未承認医薬品については臨床倫理審査委員会にて承認が得られたもののみを使用するルールをとり、当該委員会で審議するための必要情報を収集するなどの対応をしている。 院内製剤についても、日本病院薬剤師会の指針に則りクラス分類を導入し、クラスに応じた審査を取り入れている。また、使用後の評価も徹底する運用としている。 その他、医薬品の安全使用に係る医薬品情報は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者（医	

薬品情報室長)から医薬品安全管理責任者への報告を行い、医薬品安全管理責任者から院内への周知を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 31 回
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器（3回）・閉鎖式保育器（2回）・血液浄化装置（3回） 人工心肺及び補助循環装置（12回）・除細動器（1回）・ハイフローセラピー・ネーザルハイフロー（1回）・および新規導入の機器（5回） ※Eラーニングによるものを含む。 診療用高エネルギー放射線発生装置（リニアック）の安全講習会（年2回） 診療用放射線照射装置（アフターローディング）の安全講習会（年2回）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定（有・無） ・ 保守点検の主な内容： 診療用高エネルギー放射線発生装置（リニアック）、診療用放射線照射装置（アフターローディング）、生命維持管理装置（人工心肺および補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・閉鎖式保育器）、当院で定めた機器（CT・MRI・血管造影装置・核医学診断装置、輸液・シリンジポンプ・フットポンプ・生体情報モニタ等）	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備（有・無） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療法施行規則第9条の23第1項第8号に則り、未承認医療機器については臨床倫理審査委員会にて承認が得られたもののみを使用するルールをとり、当該委員会で審議するための必要情報を収集するなどの対応をしている。 臨床工学技士を配置し、院内の安全管理部員を兼任とすることで、院内で起こった医療機器に関するインシデント等に早急に対応、安全管理部との共同配信文書として院内へ配信することができている。 また、全体で行う院内講習会のほか、インシデント発生等の際には原因を究明し、部署別・事例別の講習会を開催し、再発防止に努めている。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☒ ・無
・責任者の資格（☒医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 「千葉大学医学部附属病院における医療安全管理に関する基本方針」第2の1において、千葉大学医学部附属病院規程第6条第6項の規定により医療安全管理責任者に任命された副病院長は、医療安全管理部、医療の質・安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等を統括すると定めている。本院の医療安全管理責任者である常勤医師の副病院長は医療の質・安全管理委員会等に出席し組織的に医療事故防止について検討し、患者に安全・確実な医療を提供するため病院長と共に医療安全管理対策に取り組んでいる。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☒ （10名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 「千葉大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」において、医薬品安全管理責任者は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者を指名し、医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知状況の確認を行わせることとしている。 医薬品情報室長を実施担当者として指名し、病院における未承認等の医薬品の使用のための処方状況や、採用されている医薬品全般の医薬品の添付文書情報のほか、医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等からの情報を広く収集し、管理するとともに、得られた情報のうち必要なものは院内全教職員へメールにて周知を行っている。また、特に周知状況の確認が必要と思われる重要周知事項については、全職員がシステムからログインして閲覧を行う事により、閲覧状況を確認できる方策をとっている。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 「千葉大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」において、医薬品安全管理責任者は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者を指名し、未承認等の医薬品の使用に関し、当該未承認等の医薬品の使用状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果の共有を行わせることとしている。 薬剤師ゼネラルリスクマネージャーを実施担当者として指名し、未承認新規医薬品等担当部門と連携を取ることで、院内における未承認新規医薬品等の使用の適否決定状況及び適正使用の確認を行っている。 ・担当者の指名の有無（☒・無）	

・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部，職種：薬剤師（医薬品情報室長）） （所属：薬剤部，職種：薬剤師（GRM）） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	Ⓐ・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ Ⓐ・無 ） ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 説明・同意文書の新規作成・更新の際に、「病院として定めた必要項目が盛り込まれているか」について、診療情報管理委員会において承認された文書のみ使用する。 また、診療情報管理士が、各診療科が説明に使用する文書を適切に使用しているか、文書を用いて説明を行った際に、診療録にも説明時の状況や患者の反応の記載がなされているか等遵守状況を確認（監査）し、説明書の追記が必要な部分に追記がない、診療録に説明時の状況等の記載がないなど不適切な場合は指導を行っている。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	Ⓐ・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： ・千葉大学医学部附属病院診療情報管理規程に基づき、診療録等の記載内容の確認および監査を行っている。 ・診療情報管理士は、診療録等の記載状況・内容を確認し、診療情報管理委員会で報告および、必要に応じて記載方法等を指導している。 ・入院基本情報、入院診療計画、医療計画行為等の説明と同意、経過記録、退院時サマリー等を対象とした、多職種監査を定期的実施している。 ・監査結果は、診療情報責任者に対して報告するとともに、ホームページ等により院内に公表する。 ・監査結果の報告を受けた診療情報責任者は、速やかに対策を講じ、その結果を診療情報管理責任者へ報告する。	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専従（４）名、専任（１）名、兼任（２５）名 うち医師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（１３）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（２）名 うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（２）名 （注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： - 医療の質・安全管理委員会に係る事務 - 事故その他の医療安全管理部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又家族への説明、当該事象の発生原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく病院職員への必要な指導 - 医療に係る安全管理に係る連絡調整 - 医療に係る安全の確保のための対策の推進 - 医療安全の確保に資する診療状況のモニタリング - 全病院職員に対する医療安全に係る教育・研修の企画、実施及び医療安全に関する認識状況の確認 - 各部署における医療安全対策の実施状況の評価に基づく、医療安全確保のための業務改善計画書の作成及びそれに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録 - 医療の質・安全管理委員会との連携状況、医療安全に係る職員研修の実績、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱いその他の医療安全管理者の活動実績の記録 - 医療安全に係る取組み及びその評価を行うカンファレンスの実施 - その他医療安全の推進に関すること ※診療状況のモニタリングとしては、医療の質・安全管理委員会へ転倒・転落発生率、損傷発生率、剖検率、Ai 実施率、デスカンファ実施率などを報告している。 ※従業者の医療安全の認識についてのモニタリングについては、医療安全管理に係る全職員に対する研修を実施した際に、e-ラーニング等により理解度の把握を行っている。 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（３ 件）、及び許可件数（３ 件）	

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ ・無 ） ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ ・無 ） ・活動の主な内容： 本院において高難度新規医療技術を用いて実施する医療行為を対象に、高難度新規医療技術の施行についての申請書や患者に対する同意説明文書を通じ、審査・評価している。承認後は、診療録等の記載内容を確認し、有害事象が生じた場合は速やかに報告を受ける。また、当該高難度新規医療技術が千葉大学医学部附属病院高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等取扱規程に基づいて施行されていたかどうかについても確認を行う。実施後は、完了や中止・中断の有無、有害事象の有無などの結果報告について文書にて報告を受ける。 ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ ・無 ） ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ ・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件） ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ ・無 ） ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ ・無 ） ・活動の主な内容： 本院において未承認新規医薬品等を用いて実施する医療行為を対象に、未承認新規医薬品等の使用についての申請書や患者に対する同意説明文書を通じ、審査・評価している。承認後は、診療録等の記載内容を確認し、有害事象が生じた場合は速やかに報告を受ける。また、当該未承認新規医薬品等が千葉大学医学部附属病院高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等取扱規程に基づいて使用されていたかどうかについても確認を行う。実施後は、完了や中止・中断の有無、有害事象の有無などの結果報告について文書にて報告を受ける。 ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ ・無 ） ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ ・無 ）
--

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 441 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 208 件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 1. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 2. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 3. 上記の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること。
⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 ・他の特定機能病院等への立入り（ ☒ （病院名：横浜市立大学附属病院） ・ 無 ） ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ ☒ （病院名：筑波大学附属病院） ・ 無 ） ・技術的助言の実施状況 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえ、訪問調査を取りやめ、紙面調査のみとされ、調査シートに基づき紙面での相互チェックを実施した。
⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 ・体制の確保状況 患者相談窓口で受付を行い、医療安全管理に関する相談内容の場合は医療安全管理部に報告と相談し対応する。

⑫ 職員研修の実施状況 ・研修の実施状況 1. 第1回安全セミナー 令和2年 7/15～8/14（eラーニング）、7/28、7/29、7/31（動画上映）、個別受講 「あらためて記録するのは何のため!？」 2. 第2回安全セミナー 令和2年 11/17～12/17（eラーニング）、12/2、12/11、12/14（動画上映）、個別受講 「院内急変に正しく対応するために」 （注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

・管理者（令和３年１月１７日 ２０２０年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）、（令和３年１２月２３日研修予定 ２０２１年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）

・医療安全管理責任者（令和３年１月１７日 ２０２０年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）、（令和４年２月１４日研修予定 ２０２１年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）

・医薬品安全管理責任者（令和１年１２月１８日 ２０１９年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）、（令和２年１１月１１日 ２０２０年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）、（令和３年１２月８日研修予定 ２０２１年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）

・医療機器安全管理責任者（令和２年２月１２日 ２０１９年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）、（令和２年１２月１０日 ２０２０年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）、（令和４年２月１４日研修予定 ２０２１年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）

・医療放射線安全管理責任者（令和４年２月２日研修予定 ２０２１年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の１０月１日の員数を記入すること）

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

・評価を踏まえ講じた措置

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 - 一 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力 - 二 組織管理能力等の当該病院を管理運営する上で必要な資質及び能力 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） ・ 公表の方法 本学ホームページ及び本院ホームページにて選出基準を掲載している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				☒ 有・無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（☒有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（☒有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（☒有・無） ・ 公表の方法 本学ホームページ及び本院ホームページにて掲載している。				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
中谷 晴昭	千葉大学理事	○	学長が指名する者	☒ 有・無
松浦 晃幸	千葉大学理事・事務局長		学長が指名する者	☒ 有・無
中山 俊憲	千葉大学大学院医学研究院長		医学研究院長	☒ 有・無
三木 隆司	千葉大学大学院医学研究院教授		医学研究院選出委員	☒ 有・無
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病院教授		医学部附属病院選出委員	☒ 有・無
入江 康文	千葉県医師会会長		学長が委嘱する学外の有識者	有・ ☒ 無
手島 英男	税理士法人千葉中央会計事務所所長		学長が委嘱する学外の有識者	有・ ☒ 無
矢島 鉄也	千葉県病院局長		学長が委嘱する学外の有識者	有・ ☒ 無
箭内 博子	千葉大学医学部附属病院看護部長		学長が必要と認める者	☒ 有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		☒ 有・無	
・合議体の主要な審議内容 一 病院規程その他規程等の制定改廃に関する事項 二 病院に関する将来計画，中期目標及び年度計画に関する事項 三 病院に関する予算の作成及び決算に関する事項 四 病院，診療科，中央診療施設その他の重要な組織の設置又は廃止に関する事項 五 執行部会において必要と判断された重要事項 六 その他病院の管理・運営・診療に関する重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 議事要録を院内ホームページへ掲載している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（☒ 有・無） ・公表の方法 本学ホームページへ掲載している。 ・外部有識者からの意見聴取の有無（☒ 有・無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
横手 幸太郎	○	医師	教授
吉野 一郎		医師	教授
磯野 史朗		医師	教授
加藤 直也		医師	教授
小林 欣夫		医師	教授
大塚 将之		医師	教授
中島 裕史		医師	教授
大鳥 精司		医師	教授
箭内 博子		看護師	看護部長
相馬 孝博		医師	特任教授

井上 貴裕		事務職員	特任教授
多田 典史		事務職員	事務部長
猪狩 英俊		医師	准教授
花澤 豊行		医師	教授
伊藤 彰一		医師	教授
堺田 恵美子		医師	准教授
浅沼 克彦		医師	教授
小野 啓		医師	准教授
鈴木 拓児		医師	教授
並木 隆雄		医師	准教授
瀧口 裕一		医師	教授
松宮 護郎		医師	教授
松原 久裕		医師	教授
長嶋 健		医師	准教授
市川 智彦		医師	教授
中田 孝明		医師	教授
馬場 隆之		医師	准教授
松江 弘之		医師	教授
鶴澤 一弘		歯科医師	教授
三川 信之		医師	教授
村田 淳		医師	准教授
伊豫 雅臣		医師	教授
岩立 康男		医師	教授
桑原 聡		医師	教授
生水 真紀夫		医師	教授
濱田 洋通		医師	教授
菱木 知郎		医師	教授
宇野 隆		医師	教授
池田 純一郎		医師	教授
生坂 政臣		医師	教授
松下 一之		医師	准教授

安部 隆三		医師	准教授
加藤 順		医師	准教授
田口 奈津子		医師	准教授
大曾根 義輝		医師	特任教授
清水 栄司		医師	教授
藤本 肇		医師	特任教授
鈴木 隆弘		医師	准教授
花岡 英紀		医師	教授
竹内 公一		医師	特任准教授
本橋 新一郎		医師	教授
林 秀樹		医師	教授
花輪 道子		技術職員	特任教授
勝野 達郎		医師	准教授
藤田 伸輔		医師	教授
諏訪園 靖		医師	教授
石井 伊都子		薬剤師	教授

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
千葉大学医学部附属病院規程を本院ホームページへ掲載している。
千葉大学会計規程を本学ホームページへ掲載している。
- ・ 規程の主な内容
 - ＜病院規程＞
 - 一 本院の目的
 - 二 病院長の権限（診療科長等の任命・解任権限など）
 - 三 本院の組織
 - 四 役職者等の任期及び業務内容
 - 等
 - ＜会計規程＞
 - 一 会計に関する目的、概要等
 - 二 会計機関、予算、資金・資産管理等
 - 三 契約・決算
 - 四 予算管理責任者の権限（予算配分、予算執行）
 - 等
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ＜副病院長＞
副病院長は、経営、安全管理、広報などそれぞれの役割において、病院長の職務を補佐する。
副病院長は、病院長に事故あるときはその職務を代理し、病院長が欠員のときはその職務を行う。
 - ＜院長補佐＞
病院長補佐は、病院長の指示する重要事項について企画・立案等を行う。
 - ＜企画スタッフ＞
病院長企画室を設置し、病院経営及び運営に関する分析、企画及び立案を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ＜人事＞
副病院長は、病院長が指名し、学長が任命する。病院長補佐は、病院長が任命する。
科長は、当該科に対応する医学研究院の研究領域又は当該科の教授のうちから、病院長が任命する。部長・センター長は医学研究院又は病院の教授のうちから病院長が任命する。
 - ＜研修＞
厚生労働省が主催するトップマネジメント研修（2021年1月26日開催）に、病院長、副病院長等が参加し、医師の働き方改革についての講義聴講、及び意見交換を行った。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	☒ 有・無				
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 監事及び監査室との連携の下、次に掲げる病院業務について監査を行う。 一 医療に係る安全管理に関すること。 二 特定臨床研究の業務執行の状況に関すること。（※） 三 その他委員長が必要と認める病院業務に関すること。 （※）医療安全の観点から、臨床研究中核病院の立入検査と同時開催としている。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（☒有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（☒有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（☒有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） ・ 公表の方法： 本学ホームページ及び本院ホームページにて、設置規程及び委員名簿（選定理由についても記載有）、監査結果報告書を掲載している。					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮坂 信之	東京医科歯科大学 名誉教授	○	医療安全識見者か つ病院管理経験者	有・ ☒ 無	1
花輪 正明	塩野義製薬株式 会社薬事部長		臨床研究識見者	有・ ☒ 無	3
藤原 康弘	独立行政法人医 薬品医療機器総 合機構理事長		臨床研究識見者	有・ ☒ 無	3
東宮 秀夫	一般財団法人医 薬品医療機器レ ギュラトリーサ イエンス財団研 修事業本部長		臨床研究識見者	有・ ☒ 無	3

山崎晋一郎	千葉県		医療安全識見者かつ病院管理経験者	有・ ☒ 無	3
宗像 令夫	独立行政法人 中小企業基盤 整備機構関東 本部千葉大亥 鼻イノベーション プラザチ ーフインキュ ベーションマ ネージャー		臨床研究識見者	有・ ☒ 無	3
中谷 晴昭	千葉大学理事		医療及び臨床研究 に関する学識経験 者	☒ 有・無	3
後藤 弘子	千葉大学大学院 社会科学研究院 教授		法律学専門家	☒ 有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

千葉大学監事監査において、管理者の業務が法令に適合することを確認・指導する。

・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)

・ 公表の方法

本学ホームページにて、関係規程を掲載している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 千葉大学役員会において附属病院の業務の監督を行っている。 ・ 会議体の実施状況（年 13 回 ※うち 2 回は臨時開催） ※うち定例開催時に、病院の業務監督を行う。 ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（☒有・無）（年 11 回 ※うち 1 回は臨時） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） ・ 公表の方法 本学ホームページにて、関係規程を掲載している。			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：（回答不要）			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 （○を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ 通報件数（年〇件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ 周知の方法 ポスター掲示や院内ホームページで周知している

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページや広報誌、パンフレット等において、特定機能病院としての役割についてわかりやすく案内している。 また、各診療科の診療実績を公表するなど、患者さんや地域に向けた情報発信を積極的に行っている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	

(様式第 8-3)

千大院サ第 144 号
令和 3 年 10 月 1 日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人千葉大学長
開設者名 中 山 俊 憲

国立大学法人千葉大学医学部附属病院の第三者による評価を受審する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 受審予定である第三者評価

- | |
|--|
| <div data-bbox="143 723 1402 833"><p>1 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価のうち、一般病院 3 による評価</p><p>2 Joint Commission Internationalが実施する、J C I 認証による評価</p><p>3 ISO 規格に基づく、ISO 9001 認証による評価</p></div> |
|--|

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 第三者評価を受けるための予定措置

2021年7月13日から15日まで受審し、現在、中間結果に基づき、改善の取り組みが確認できる資料を提出した。補充的な審査を11月初旬に受審する予定。
--